

Tokyo

工学院大学・校友会報 / Vol.124

# Urban Tech

●表紙の人：畑村洋太郎

「失敗学」の提唱者／要するに、失敗をプラスの活力にしていこうとする学問／そういえば、昨年ノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんも、ある失敗からあの開発を成功させたと言っていました／「失敗学」の真髄は、本文でどうぞ。

校友会では、E-mailを利用した情報発信を行なっています。E-mailアドレスをお持ちの方は、下記の校友会メール・アドレスにお知らせ下さい。  
kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp



# 心の構造改革で輝く校友



南雲芳夫 工学院大学校友会・会長

校友の皆様、如何お過ごしでしょうか？

校友会本部も前年度は、恒松副会長を始め、役員の皆様、そして事務局では渡辺専務理事、小沢さんの大きなサポートで事業がすべて成功裡に推移いたしましたことを、全国の校友の皆様にご報告し、感謝いたします。

いつものことながら、春は始まりの季節です。穏やかな東風がそっと通り抜けたかと思うと春風が吹き、そしてもう桜が咲き誇る候です。しかし春の風、初夏の風に心弾むことばかりではありません。不景気風は止みそうもありません。でも、私たちも、工学院も、その歩く先にはいくつもの越えていかなければならない峠があるのを覚悟させるのも、この4月という季節です。

本年4月1日から、大橋前学長が新理事長、学長に新たに三浦宏文先生が就任され、そのお人柄とともに持ち前の情熱で学園のますますの発展にご尽力いただくことを願って止みません。

さて、今年も、7月11日に第14回全国大会(九州大会)が開催されますが、この大会が校友会の発展に寄与する大きな力の原動力になりますよう、願っております。

昨年の校友会報においても申し上げた通り「新宿校地の権利問題」について、長い間、懸案になっていたことが、良い方向へ動きつつあります。学園にとっても誠に喜ばしいことだと考えております。「新宿校地の再開発」の第3期工事の契約時における判断ミスが、今日までその問題を引きづっているのであり、組織の責任者のその責任は、大変に重いものがあるということを改めて感じ、今後、同じことを繰り返さないように願わずにはられません。

昨年度は、特に、工学院大学出身の校友の教職員の皆様に、あらゆる行事にお一人お一人が参加して校友会と学園を盛り立て、心のこもった素晴らしい教育の場に変革していくことをお願いして廻り、本学園の卒業生は教育についてはもちろんのこと、心の豊かな技術者として広く社会からも認められるように願いながら行動してまいりました。

皆様におかれましては、心身ともに健康で、かつ何よりも自分自身に克つ、強く輝かしい心で大活躍され、今年もさらに素晴らしい年となりますよう願っております。

校友会に対して、今後とも変わらぬご関心とご協力をお願い申し上げます。

下記の方々が、校友会の常任理事です。ご支援をお願いいたします。



## 【目次】

『会報』vol.124の発刊に寄せて | 心の構造改革で輝く校友：南雲芳夫……………01

ご挨拶① | 理事長新任のご挨拶：大橋秀雄……………02

ご挨拶② | 学長就任にあたって：三浦宏文……………03

座談会① | OG、大いに語る男たちには任せてられない：  
池田ひとみ・岩下絵美子・坂口教子・松尾知子・村上久美子・横田彩子……………04

表紙の人 | コロンビア号の空中分解に思う：畑村洋太郎……………08

特別寄稿 | 人口減少こそが日本のチャンス：原田 泰……………10

OB・OGが社長の会社探訪 | オレス工業世界初・世界一を目指す：佐藤英二……………12

座談会② | OB、大いに語る 21 世紀の技術と人間：  
安沢収太郎・太田定吉・笠原又一・加藤修一・菊地徳吾  
工藤一博・塩野博万・新藤周一・高木成幸・豊田 実……………14

TOPICS | NHK「ロボコン」に、工学院大学チーム出場……………19

寄稿① | 夏炉冬扇：岩原康夫……………22

寄稿② | 科学技術と倫理：林 真理……………23

学園から | 理科教室——八王子キャンパス……………25

国際新技術フェア 2002——機械システム工学科+電気工学科……………25

夢工祭——中学・高校学園祭……………26

「父母懇談会」のお知らせ——大学後援会……………26

ロボット競技会——専門学校……………27

校友会から | 拡大会——上海・蘇州・無錫・北京視察……………28

支部だより | 北海道支部・宮城県支部・山形県支部・福島県支部……………30

栃木県支部・埼玉県中央支部……………31

西東京支部・湘南支部……………32

西洲支部・福井県支部……………33

大分県支部……………35

校友の皆さん、お元気ですか！/私も頑張っています

校友とともに風車を創造しよう：武智昭雄……………36

理系から文系を考える：西原孝行……………37

昭和 38 年度卒自動車部仲間の集い：岡崎良興……………39

先輩の皆さん、学園に来て下さい/現役生の活動から

(大学) 柔道部・硬式野球部……………41

(中学・高校) 野球部・柔道部……………42

校友会より | 「第 58 回評議員会 & 第 47 回総会」開催のお知らせ……………43

平成 14 年度事業報告 & 平成 15 年度事業計画(案)……………44

平成 14 年度取支計算書 & 平成 15 年度取支算書(案)……………45

平成 14 年度貸借対象表平成 14 年度財産目録……………46

計報……………46

平成 14 年度支部総会開催実績 & 平成 15 年度支部総会開催予定……………47

学生・生徒の表彰……………47

事務局からの「お知らせ」……………48

公開講演会「国家戦略としての産業人材教育」……………49

「第 14 回全国大会(福岡大会)開催」のお知らせ……………50

## ■校名の愛称——

### 「Tokyo Urban Tech」について

工学院大学では、グローバル化の一環に、校名の愛称「Tokyo Urban Tech」を商標登録として申請中です。校友会の『会報』では、表紙に、この愛称を使用することにしました。

ご挨拶①

# 理事長新任のご挨拶

大橋秀雄 工学院大学理事長



4月1日付で学校法人工学院大学の理事長を拝命いたしました。北郷薫前理事長が任期半ばで辞任を申し出られたため、急遽後任の選出が行われ、私が残余の2年間をお引き受けすることになりました。私は学長時代を通じて「大学と校友会は車の両輪である」とつねづね言って参りましたが、こんどは「学園と校友会は」という立場になりました。二つの車輪がバランス良く回って、目標に向けまっすぐ前進できるように、新たな思いで努力したいと思います。校友の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

北郷前理事長は、途中の非常勤講師の時期を通算すると合計53年6カ月にわたって学園に在職され、まさに工学院大学の歴史と共に歩まれてきました。ことに、学長、理事長時代は新宿再開発とそれに付随する問題の処理に全力を投入され、学園の基盤を強固にされたご貢献には極めて大きいものがあります。その後を継ぐものとして、私の工学院歴はたったの11年間に過ぎませんが、むしろそれを過去に囚われない特性として生かし、激動の時代に機敏に対応できるよう学園経営にリーダーシップを発揮したいと念じております。

学園は、次の創立記念日で満116歳に達します。その間、生徒・学生はもちろん、教職員も何代にもわたって入れ替わり、創学は遙か昔の歴史の一コマと思えるようになってきました。その間の科学や技術の進歩も、想像を絶するものがあります。しかしその歳月も、実はギネスブック記載の世界最長寿者——本郷かまとさん——の人生より一カ月少ないこととなります。これは極端な一例ですが、私が言いたいことは「一生のうちに起こる変化はすさまじい」、「学校で習うことは、生涯で学ぶことのほんの一部」ということです。時代の変化に応じて自らも進化させ続けないと、やがて置いてきぼりになってしまいます。

校友の皆さんにとって、学園は過去の象徴でした。これを、校友が生涯にわたって活用できる「知識のリフレッシュ基地」に変えるのが、私の一つの夢であります。CPD (Continuing Professional Development / 継続能力開発) がやがて日常語となる時、学園がもっと身近な存在になるでしょう。そのときの準備を、いまから始める必要があります。

4月は入学の時期、大学や中学・高等学校、専門学校の入学式で、やがて校友に加わる新入生諸君に祝辞を述べながら、「私も1年生、勉強し直せ」と自らに話しています。どうぞよろしく、新人理事長をご鞭撻下さい。

■大橋秀雄 (おおはし・ひでお)

1931年●東京都生まれ  
1954年●東京大学工学部機械工学科卒業  
石川島重工業入社 (~1959年)  
1976年●東京大学教授  
1992年●工学院大学教授  
1994年●工学院大学学長

1992年●藍綬褒章受章 1992年  
1993年●日本機械学会論文賞受賞  
1995年●科学技術庁長官賞受賞  
1997年●紫綬褒章受章  
日本工学会会長 / 日本工学教育協会副会長  
日本技術者教育認定機構副会長 / 日本工学アカデミー会員

ご挨拶②

# 学長就任にあたって

三浦宏文 工学院大学学長



このたび、歴史と伝統のある工学院大学の学長に就任することになりまして、責任の重大さを感じ、身が引き締まる思いであります。皆様の、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

さる1月25日の「工学院大学校友会」の新年会におきまして、「ロボット技術の行方」と題した講演をいたしました際には、会長をはじめと多数の校友の皆様にご聴講していただきまして、非常にうれしく思いました。まずは、お礼を申し上げます。どうも有り難うございました。

さて、工学院大学の創立者、渡辺洪基先生のお名前は存じ上げていましたが、昨年、先生の没後100年記念行事が、ご出身地の福井県武生市で催されましたが、そのときの資料で履歴を拝見し、如何に立派な方であったかをはじめと知り、感激いたしました。校友の皆様は、すでにご存知のことなのだと思いますが、私のまわりの、若い校友の中には、余り知らない人もいましたので、ここに簡単に紹介して、工学院大学の立派な歴史を再認識したいと思います。学長として、私自身も心の拠り所にしておきたいという気持ちでもあります。

資料には、渡辺先生が、「明治国家のプランナー」と称されています。1871年(明治4年)には、20代の若さで、岩倉具視、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文らに随行して米国を訪問し、見聞を広めました。その直後に、イタリア、オーストリアへ外交官として派遣されています。夫人同伴で在外勤務したのは、我が国最初だったそうです。1885年(明治18年)には、東京府知事に任ぜられ、翌年には、帝国大学総長を拝命しました。そして、1888年(明治21年)、本学の前身である工手学校を創立されたのです。その後も、建築学会長、銀行頭取、生命保険会社社長、貴族院議員など、幅広く、超人的な活躍をされました。進取の精神に富み、先見の明に優れた方でした。人格は、「終始一貫権勢におもねることなく、清廉潔白であり、平民的で寛容」と形容されています。まさに、現代社会において、期待される人間像とでも呼ぶべき人物です。このような創立者を持つ工学院大学の一員であることを、この上ない誇りとすることができると思います。

工学院大学の任務は、創立以来、技術者を育成することです。とどまることなく進歩する科学技術は、私たちの日常生活に大きな変化を与えています。この変化を、具体的に作り上げるのは、工学技術の力です。地球温暖化の抑制への貢献が期待されている電気自動車、情報化社会を象徴している多機能携帯電話などを見ても、工学技術が世界を変革していることを如実に感じ取れます。この工学技術を生み出し、育て、支えているのが技術者ですから、技術者の責任はこれからますます重大になり続けるでしょう。

現代において、技術者には、非常に幅広い素養が求められるようになってきています。技術に関する十分な専門知識はもとより、技術が生み出す効果や、それが、究極的に、人類の幸福にどのようにつながるのかを深く思考する素養を身につけなければなりません。

工学院大学では、このような広い見識を持つ優れた技術者を育てるために、教職員は日夜努力しております。学長の任に就きまして、私も、精一杯奮闘する決心をしております。

校友会の皆様のご協力、ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■三浦宏文 (みうら・ひろふみ)

1938年●生まれ  
1960年●東京大学工学部機械工学科卒業  
1962年●東京大学大学院修士課程修了  
1962年●東京大学大学院博士課程修了

1967年●米国航空宇宙局(NASA)客員研究員  
1998年●工学院大学機械システム工学科教授  
2001年●工学院大学総合研究所所長  
1998年●工学院大学機械システム工学科主任教授

# 男たちには任せてられない

—座談会①—  
OG、大いに語る

—21世紀は女性の時代といわれています。女性の卒業生を代表して大いに語って下さい。まず、工学部を選んだ理由を、自己紹介を含めながら、お願いします。

**坂口**●私は学生時代、大学で機械工学を学び、それを生かしたく設計会社に就職し、食品・包装・自動省力機械の設計を行っておりました。当時はドラフターを使用して手描きで製図していた時代から、CADというコンピュータで図面を描く時代に移行した時期で、設計や製造・加工などのノウハウを習得するだけでなく、コンピュータ操作なども覚えなければなりませんでした。

副次的にコンピュータに関する知識を得たことがきっかけで、現在は、Web制作・IT教育・PCメンテナンスを主に、コンピュータに関するトータルサポートを提供する会社を経営しております。

**池田**●小学校から算数、理科が好きで、特に化学の授業が楽しく、興味をもちました。その分、文系分野の勉強はおろそかになりましたけど……。薬学部も考えましたが、高校時代、数学が好きになり、工学部工業化学科を選択しました。



■池田ひとみ(いけだ・ひとみ)  
1992年、工業化学科卒業

研究室は工業分析化学研究室でした。でも大学2年生の時、必修科目である分析化学の単位が取れなかったんです。3年生になって授業を取るために新宿・八王子間を往復したことが思い出になっています。でも分析は好きでしたから、研究室は分析研と決めました。

**岩下**●大学院から工学院大学にお世話になりました。大学は、家政学部住居学科を卒業しています。建築を選んだ理由は、両親が建築をやっていたことと、幼い頃から物を作るのが好きだったので……。

大学院から工学部系の大学院を選んだ理由としては、住まい手や利用者の立場から建築を設計するだけでなく、いろいろな意味で大きな視点から建築を勉強したいと思ったことが大きな理由です。

**池田ひとみ**(工学院大学・広報部広報課)  
**岩下絵美子**(小田急建設・営業本部設計部)  
**坂口教子**(デバイスネット/WEBデザイナー)

**村上**●電子工学科情報工学コース出身です。数学、物理が好きだったので工学部を選びました。大学ではハードウェアとソフトウェアを浅く広く学んだと思います。深い知識がなかった分、出だしは不安や自信の無さを伴い苦労しました。しかし、広く学んでいたおかげで、いろんな分野において、キーワードを手がかりにすることができたと思います。

**横田**●昔から理科と美術が好きで、特に高校の頃は物理と美術が得意だったので、それらを生かせる進路がないかと悩んでいました。その時、部活の上級生の方が、建築学科にいくと知り、初めて建築学科の存在を知りました。その後、調べてみると、大変興味をわき、これしかないという気持ちにさせられました。



■横田彩子(よこた・さいこ)  
2002年、建築学科大学院修士課程修了

**松尾**●機械工学科の出身で、自分の得意分野なので、仕事は大学より面白いです。ものづくりできる職場です。

**池田**●就職先は、一般企業でしたら化学に携われる仕事に就きたいと思いましたが、学んだことが100%生かされないかもしれないけれど、大学事務職を選びました。

小学校の時、名札を紛失してしまい、職員室にもらいにいったんですが、その時に対応してくれた人は先生じゃなくて事務員さんだったんです。その時に、学校には先生以外でも関わっている人がいるんだと興味を持ちました。現在は、本大学広報部で生涯学習の仕事をしています。社会人向けの公開講座や小中学生向けの夏休み理科教室を担当しています。広報部の前は就職課に配属されていました。どちらもOGとして生かせる職場だと思っています。

**坂口**●私が工学部を選択した一番の理由は、父が機械設計エンジニアで、小さい頃から市場に陳列されるさまざまな商品などが機械で作られていることを教えてもらい、商品ではなく、その機械に対して興味を

**松尾知子**(三菱電機鎌倉製作所・宇宙技術部)  
**村上久美子**(三菱電機鎌倉製作所・宇宙技術部)  
**横川彩子**(小林真人建築アトリエ)

[司会] 校友会広報部

感じたことです。そして、父が開発を行った設計図面……当時は3次元ではなく2次元で描かれた設計図面でしたが、紙の上で機械が動いているように見え、そのような機械を私も設計してみたいと感じたことがきっかけです。

**村上**●私の今の仕事は、宇宙機搭載の制御計算機の電気設計です。HTV(H-II Transfer Vehicle)という宇宙ステーションへの輸送機に搭載される計算機を開発しています。



このプロジェクトの前は、HTS-VIIという技術衛星に携わってました。この衛星は、おりひめ・ひこ星と呼ばれ、ランデブードッキング(RVD)の実験が行われました。HTVはこのRVDの技術を使って宇宙ステーションにドッキングする無人のピークルです。有人の宇宙ステーションに接近するので、安全要求がとても厳しいです。

開発期間が長いので、自分の設計したものが世の中に出る機会が少ないのは残念ですが、大きなプロジェクトを完成させるという喜びがあります。

**横田**●不況の時代ですから、就職は大変でした。実際、企業を受けると、学閥と女性という壁は感じておりました。設計を希望していましたが、なかなか決まらなかったのですが、最終的には自分を押し下げる先輩の推薦で今の職場に決めました。

私は学生時代に、企業から融資を受け有志で卒業設計展を開催したり、他の大学などのワークショップに参加したりと、課外活動に積極的に参加してきました。そういった活動を通じた経験も生かして建築にこだわらず、ものづくりに携わっていきたく考えております。

—皆さんの働かれている世界といいますが、職場は、まだ圧倒的に男性社会だと思うのですが、その中での苦勞はありませんか。



**岩下**●今年度、同じ設計部に入社したのは、私を含め女性2人です。入社当時、女性設計者は1人しかいませんでした。やはり、企業の中で設計業務をやり続けられるか、いろいろ不安もあります。

女性ということでもリスクも多いと感じますが、異例ということもあり、周りの方々が気にして下さっているのがありがたく感じています。部長はじめ、設計部に工学院OBは5人も在籍していますし、力強い支えになっています。

仕事の内容としては、実施設計と計画物件を幾つか担当しています。新人にもかかわらず、いろいろなことにチャレンジさせていただいています。入社時から携わっている新宿駅西口地下街の小田急エース商館は、4月にリニューアルオープン予定です。トイレは思う通りにやっていると任せていただき、当初、計画になかったパウダー・コーナーを設けたりしました。慣れないことばかりで大変ではありますが、日々勉強になっています。

**池田**●女性だから、男性だからという差別はありません。それなりに重労働もありますし……女性の役職者も何人かおられます。

**横田**●一人のスタッフとして代わりはありません。一人一人が、担当物件を持ちノルマをこなしておりますので、男も女も関係ありません。

**松尾**●残業には女性も関係ありません。人工衛星の太陽電池のパドルの設計をしています。入社から約10年間はコンピュータのハードウェアの設計を担当していましたが、その後、宇宙開発に関わっています。コンピュータ関係と宇宙関係の開発



■松尾知子(まつお・ともこ)  
1989年、機械工学科卒業

では、製品開発のサイクルとスピードが異なります。

**村上**●私の職場では、女性だからということでは差別されることはないと感じています。性別ではなく、取り組む姿勢や、能力で評価されていると思います。とはいえ、私が入社した時は男女雇用均等法が制定

男たちには任せてられない

されてから何年も経っていましたが、女性技術者であるということで珍しがられました。それは悪くもあり、よい面もありました。女性ということで信頼されなかったり、軽くみられたりすることもありましたが、目立つ分覚えてもらえたり、優遇されることもありました。

最初はよくも悪くも「女性だから」と特別視されることに意固地になっていました。甘えていると思われなくなかったのです。ある時、女性ということで得る部分があるのであれば堂々と受け入れてもいいのではないか、これは甘えとは違う、と考えることができるようになりました。以来、肩肘張らずになじむことができましたと思います。

今、女性技術者も対等に仕事ができる土壌がようやくできてきたのではないかと思います。私の職場では、それまで女性が辞めてしまうことが多かったためか、女性は長らく重要な仕事に就くことは少なかったようでした。今の女性技術者は男性と同じように頑張っていて、ようやくそれが認められてきているのではないかと思います。

—先輩として、現役の学生たちに、夢と希望を与えるひとことをお願いできますか。

**村上**●努力しましょう！ 責任と仕事の面白味は一心同体です。仕事は大変なことが多いですが、それを乗り越えてこそ仕事は楽しいのだと思います。

また、自分の目指すところを見つけて欲しいと思います。やりたいことがあったら、自らそれに向かきましょう。与えられた仕事をするのではなく、やりたい仕事をアピールすることが大切です。

**坂口**●学生時代に学べる知識と、社会人になって会社に勤めてから学べる知識があります。会社で学べる知識は、すぐに実践で生かすことができますが、基礎的な知識がないと、会社で学んだ知識をうまく生かすことはすぐにはできないかと思います。

学生時代に学んだ知識を、社会に出てから開花させるために、学生時代に学べるものはしっかりと学び、自分のものにするのが大切だと思います。

また、学生の皆さんは、「何をしたいのか?」、「やりたいことに対して、何をすればいいのか?」などいろいろと考えていると思います。その答えを見つけるために、先輩方のアドバイスはとても貴重なものです。先輩方のアドバイスに耳を



■坂口教子(さかぐち・きょうこ)  
1999年、機械工学科卒業

傾け、たくさん考えた分だけ、社会人になった時、さまざまな業界で、学んだ知識を生かすことができるはずです。

**横田**●学校の授業などをこなすことだけで自分を満足させないで欲しいと思います。理系なので忙しいとは思いますが、その中でより自分の視野を広げることには時間を費やして下さい。社会的に認められて、縛られない環境でいられることを有意義に活用して、いい大学時代を送って下さい。

**松尾**●大学の優等生になる必要はない。アルバイトをとことんやってみるのもいいと思います。一人旅をするチャンスでもあります。とにかく、いろんなことに挑戦してみてください。

**岩下**●仕事を始めると、自由に使える時間は限られています。社会人になって初めてメリハリのある生活をしているわけですが、学生時代もっといろいろなことをしておけばよかったなあと感じます。



■岩下絵美子(いわした・えみこ)  
2002年、建築学科大学院修士課程修了

時間のある学生時代だからこそ、いろいろなことに興味をもって有効な時間を過ごして欲しいと思います。

**池田**●夢を持って、自分がどうなりたいのか考えて大学生生活を送って下さい。就職活動をする際に、自分がどうしたいのかが分かってくると思います。「自己分析」ということなんですけど……。

これって、3年生の就職ガイダンスで言われる(言っ

てもいた)んですが、「自己分析」の意味って、社会人になって初めて分かるんですね。

—最後に、この『校友会報』に何かアドバイスをいただけますでしょうか。

**横田**●建築学科の同窓会誌の編集補佐をしていたので苦労は大変に分かります。内容が「大学がすべき○○」といった記事は、OBには半分関係なく、身近に感じないのではないのでしょうか。

卒業生の活躍やロボコンの裏側の学生や先生のお話など、自分に置き換えられるような情報の方が読みやすいのではないのでしょうか?

**松尾**●30代が主役のファイナンシャル・プランナーなどの登場を期待しています。

**岩下**●同期生や知っている人が出ていると、目に止まり、目を通しますね。

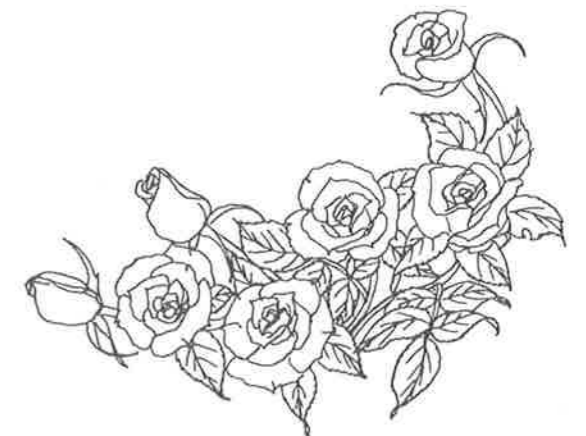
**坂口**●世代を分け、その世代ごとに活躍されているOB・OGの皆様の情報を掲載してみたいかでしょうか?

**村上**●求人案内を載せてはどうかと思います。就職を斡旋できるのは、大学の強みではないのでしょうか。興味を持つ人も多いのではないかと思います。

また、知っている人やお世話になった先生が出てくると、よく読みます。自分と同じ世代の人が登場しているのも、興味を惹かれます。母校の卒業生の活躍が紹介されて、卒業生のネットワークができるといいなと思います。

**池田**●各会社・地域単位の支部だよりとかがあったらよいですね。大学が今、何をしているかというより、OBがどういった活躍をしているかの方が興味があるのではないのでしょうか?

—座談会①—  
OG、大いに語る



# コロンビア号の空中分解に思う

畑村洋太郎 工学院大学国際基礎工学科教授

スペースシャトル・コロンビア号の空中分解という事故の報道に接し、まず原因を推測した。打ち上げ時のタイルの剥離により、機体の構造が損傷を受けたために再突入時のショックで機体全体が壊れた、構造的な損傷はないが剥離部分の断熱が不十分になり、再突入時の高温により機体全体が壊れた、構造体の疲労破壊が起こった、などである。手抜き・見落としなどのもっと別の人的な要因の可能性も否定できない。これまでその重要度の位置づけが小さすぎたことが顕在化したとか、全く未知の事柄が起こったことも考えられる。

事故後1カ月が経ち、現在も事故調査は継続されている。調査の結果、事故の直接原因が特定されたとしても、失敗の背景にある大きな社会的・歴史的な流れを見ようとしなければ真の原因はつかめない。

今回の事故の報道では、タイル剥離直後の判断の是非が取り沙汰された。タイルの剥離による直接損傷や再突入時の高温破壊などのシミュレーションを機外脱出可能とされる約3分間に行い、打ち上げ続行か否かの判断を下さなければならなかった。3分という短時間では、十分なシミュレーションを行うことは困難で、予め行っておいた“仮想演習”に基づいた判断がなされたと思われる。しかもここで求められた判断は、1か100かではなく、49か51なのかを判断するような微妙なものである。

このような判断は周囲の“気”(社会・歴史的な雰囲気)に影響され易い。チャレンジャー号の爆発がアメリカ軍のリビア攻撃が準備されていた時期に起こったことと、今回のコロンビア号の空中分解がイラク攻撃準備の真っ只中に起こったことは偶然の一致とは思えない。なぜなら、判断者を取り巻く“気”は国威発揚のための“計画続行”であったと十分に考えられるからである。

失敗学には同種の失敗は30～20年周期で繰り返されるという大法則がある。スペースシャトルの前回の事故は17年前(1986年1月)に起こった。スパー

スシャトルプロジェクトもこの周期性と無縁ではあり得なかったのかもしれない。なぜなら、失敗出来の周期性は技術者の傲慢・社会の過大な期待・(慣れや怠慢などの)組織運営の緩み、言い換えればプロジェクトを取り囲む“気”によって起こっているからである。

このような事故原因の推定とは別に、私がこの事故から感じたのは、原因究明と責任追及とを分離し、徹底的な原因究明を行うことの大事さである。こうすることによってこそ、事故を通じて今までに人類が持っていなかった新たな知識を獲得することが可能になる。我が国でもし同様の事故が起これば、まず関係者の責任追及に始まり、原因究明が十分になされないうまま、「複合要因」で締めくくられてしまうだろう。このような事故に際し、“気”に惑わされぬ冷静な対応を学んでいきたい。

## 「失敗学」のすすめ

畑村先生は、「失敗学会」を設立し、その会長に就任されました。第1回総会が、2002年12月9日に開催されました。「失敗学会」は、特定非営利活動法人(NPO)です。

総会の資料のなかに畑村先生が説く『「失敗学」のすすめ』が掲載されていたので、まとめの部分を、ここに採録させていただきます。

### ■「失敗学」のすすめ

- 1 失敗についての見方——失敗の積極的な取扱いが必要
  - (1) うまくゆく方法を教えるより、まずくなる道筋を教える方が効果大きい。
  - (2) 失敗をしなければ受け入れの素地としての体感・実感は得られない。
  - (3) 失敗には許される失敗と許されない失敗がある。許される失敗は成長と進歩に必要なもの

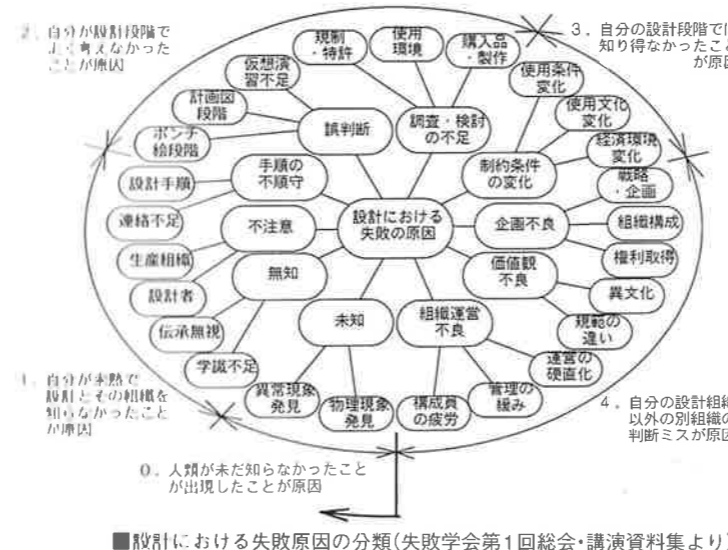
主な著書●『続々・実際の設計——失敗に学ぶ』(日刊工業新聞社/1996年)、『失敗学のすすめ』(講談社/2000年)、『子どものための失敗学』(講談社/2001年)、『失敗を生かす仕事術』(講談社/2002年)、『社長のための失敗学』(日本実業出版/2002年)、『決定版失敗学の法則』(文芸春秋/2002年)、『実際の設計第4巻——こうして決めた』(日刊工業新聞社/2002年)

■畑村洋太郎(はたむら・ようたろう)
1941年●東京都生まれ
1966年●東京大学大学院修士課程修了
1983年●東京大学工学部教授
2001年●工学院大学国際基礎工学科教授
畑村創造工学研究所開設



- 許されない失敗は同じ愚を繰り返すもの
- (1) 失敗をマイナス面からだけ見ず、プラスに転化する努力をしよう。
- 2 失敗を捉える視点——失敗を立体的に捉えよう
  - (1) 失敗の原因は多層に重なっており、多くの様相で結果が現れる。
  - (2) だから失敗は立体的に捉えなければならない。
  - 技術的側面から取扱いは当然、また責任追及も必要。
  - (3) 心理的側面・経済的側面・法律的側面・社会文化的側面・経営的側面も必須。
  - 3 失敗知識の伝達——知識にしなければ伝わらない
    - (1) 失敗知識を活用しよう。
    - (2) 沢山の失敗情報が眠っている。
    - (3) 失敗の多くは情報伝達の途絶で起こる。
    - (4) 事例についての情報だけでは何も伝わらない。知識にして初めて伝達可能になる。
    - (5) 結果だけでは分からない。
    - 脈絡を知らなければ分からない。分からなければ伝わらない。伝わらなければ使えない。
    - 4 失敗の必然性——失敗の出来には必然性がある
      - (1) 失敗は予測できる
        - 予測できるのに防げないのはなぜか。防げないの

- ではなく防がないのである。
- 失敗の素地を放置し、予兆を無視し、顕在化しなければそれでよしとする力が働くから。
- (2) 産業の成熟とともに脈絡の成長と衰退が起こる。成熟すると余計な選択肢は切り捨てられ、脈絡は単線化し、予期せぬ外乱で破滅する。
- (3) 局所最適が全体最悪をもたらす。全体を知り、それとの関係で自分の仕事をする人間を育てる他に王道はない。
- (4) 管理の強化では失敗は防げない。管理を強化すると形骸化し、面従腹背が起こる。失敗を隠すので、結局同じ失敗を繰り返すことになる。
- (5) 社会が依存し、影響が大きく、危ないのは、原子力・半導体・大量輸送機関・食品・医療である。
- 5 失敗を生かすための工夫——工夫しなければ生かせない
  - (1) 原因究明と責任追及とを分離しよう。それで初めて真の原因究明ができる。免責、司法取引、懲罰的賠償は必須、社会公正のための内部告発の奨励と保護。
  - (2) すべての基になる失敗知識のデータベース作りが必要。事象・経過・推定原因・対処・総括・知識化で記述。300例もあれば十分。
  - (3) 知識と体験を与える場、たとえば失敗博物館(失敗体験館)が有効。ネットワークによる発信、事故の展示、失敗の実体験、コンサルティング、失敗学研究、を行う。
  - (4) 失敗を生かすと得になる仕掛けが必要。潜在失敗の顕在化は経済原則に載せるのが一番よい。たとえば失敗対策をプラス評価する時価会計。



■設計における失敗原因の分類(失敗学会第1回総会・講演資料集より)

\*失敗学会はこれから工学院大学と講座を共催していく。問い合わせおよび失敗学会へ入会希望の方は、下記まで。
〒163-1452 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペラシティタワー52階 / ☎03-6644-0026
E-mail: admin@shippai.org | http://www.shippai.org/

# 人口減少こそが日本のチャンス

原田 泰 内閣府経済社会総合研究所・総括政策研究官

日本の人口は減少していく。人口が減少することについて、多くの人が不安に思っているようだ。人口減少は、人口の高齢化であり、働く人口を激減させる。貯蓄率は低下し、投資は停滞する。進取の気性を持ち、新しい技術を創造し、それに適応できる人々は少なくなる。経済は停滞し、社会は、高齢者の扶養負担に音を上げる、というのである。しかし、人口減少を悲観する必要はない。労働力が減少するならば、一人当たりの生産性を高めればよい。同じ人口の中のより多くの人々が働けばよい。これは、これまで働く希望を持ちながら働けなかった女性の労働参加率を高めるチャンスでもある。年金など高齢社会のコストが高くなりすぎるなら減らせば良いだけのことである。日本の年金の給付水準は世界的に見て、多少減らしても大丈夫なほど高い。人口減少という変化は、日本にとってむしろチャンスである。特に、人口減少は、これまで実現できなかった豊かな居住環境を得るチャンスである。このチャンスに対応して、人口減少社会に相応しいシステムを構築していけば、日本は繁栄を続けていくことができる。

以下、人口が減少しても日本経済の将来を悲観する必要はまったくないことを示したい。

## 人口減少社会は陰鬱な社会か

人口が減少することは陰鬱なことだろうか。人口が減少すれば、高齢社会を支える若者がいなくなる。だから陰鬱な社会になるというのだが、逆に人口が際限なく増大していくことを考えてみよう。日本の人口は1900年の4,300万人から100年かけて3倍近い1億2,700万人まで増加した。このテンポでの人口増加が続けば、2100年には3億7,500万人になる。これだけの数の日本人が、狭い国土で平和に豊かに暮らすことが可能だろうか。

人口減少は、日本だけのことではない。アメリカを除く先進工業国の多くが、人口減少社会への途を辿っている。先進工業国の多くで人口の減少が予測

され、人口の高齢化が進む。イタリアではすでに人口が減少し始めており、ドイツでは2005年頃から人口が減少する。イギリス、フランス、スウェーデンでも2025年頃から人口は減少する。また、人口減少はアジアでも同じである。インドネシア、フィリピン、マレーシアを除いたアジアの主要国もやがて人口が減少すると予測されている。中国の人口も2030年代の15億人余をピークに減少するとされている。そして、マレーシアを除けば、中国をはじめ人口の伸びが停滞しているアジアの国の方が、一人当たりの所得の伸びが急速である。

## 人口停滞によって一人当たりが豊かになった

多くの人が、人口が減少する世界で経済を維持することの難しさを議論している。しかし、私はむしろ、人口減少こそが一人当たりの豊かさを飛躍的に上昇させる可能性のあることを指摘したい。なぜなら、そもそも産業革命とは、人口が予想されたほどは増加しなかったという現象だからだ。ノーベル経済学賞のロバート・ルーカス・シカゴ大学教授は、産業革命の本質は、生産物が増大したことではなくて、人口が増加しなかったことだ、と指摘する。それ以前にも、生産物の増大が見られたことがあったが、人口の増加によって、一人当たりの生産物は増大せず、人類の平均的な生活水準が高まることはなかった、というのである。確かに、マルサスの人口論とは、人口が増加する社会を陰鬱に描き出している理論だった。

## 人口減少と需要構造の変化

人口が減少するとき、全体としての所得が伸びなくても、一人一人が、より効率的に働けばよいからだ。たとえば、日本の流通業の効率性はアメリカの6割である。アメリカを真似するだけで、日本経済の効率を高めることができる。先進国へのキャッチアップとは日本の得意技ではなかったか。

著書

- 『狂騒と萎縮の経済学』（東洋経済新報社／1993年）
- 『日米関係の経済史』（筑摩書房／1995年）
- 『日本経済の敗北』（ダイヤモンド社／1996年）
- 『日本の失われた十年』（日本経済新聞社／1999年）
- 『都市の魅力学』（文芸春秋社／2001年）
- 『人口減少の経済学』（PHP研究所／2001年）
- 『「大停滞」の終わる日』（日本評論社／2003年）など

ただし、一人当たりの効率が上昇して所得が上がるときには、需要構造が変わることを理解しなければならない。一人当たりの所得が同じで人口が倍になったA国と一人当たりの所得が4倍になって人口が半分になったB国について考えてみよう。どちらの国の所得も、全体では倍になった。しかし、売れているものは変わるだろう。A国では大衆車が倍売れるようになるが、B国では高級車が売れるようになるだろう。需要構造の変化に合わせる事が難しくなる。しかし、それができればチャンスはどちらの国にも開けている。

多くの人が、人口が減少する世界で経済を維持することの難しさを議論している。しかし、人口が減少するならば、一人当たりの生産性を上げればよい。女性や高齢者が働いて、労働人口を増やせばよい。高齢社会の負担が増えるなら、それを引き下げればよいだけの話である。日本の年金は世界一高いのだから、多少減らしてもまだ世界一である。人口減少は一人当たりの空間を広げて、日本がこれまで得られなかった居住環境の豊かさを獲得するチャンスである。

## 人口減少がもたらすゆとりある住環境

人口減少そのものが生活を豊かにすることもある。人口が減少すれば過密状態がなくなり、住環境が改善し、交通混雑も改善されるからだ。

日本人が生活の豊かさを実感できない理由の一つに、狭い住宅の問題がある。しかし、人口が減少すれば、見劣りしていた住環境は改善する。まず、実質GDPの伸び率と同じだけの新規の住宅投資をするだけで、一人当たり住宅面積は着実に拡大する。

さらに、質の悪いものが淘汰され、質や利便性が向上する。住宅を求める人の数が減れば、駅から近いとか日照が良いなど条件が良く質も向上させた物件でないと売れなくなる。現在、駅までの距離が2km以上の住宅の割合は、借家で28.1%、持ち家では実に43.8%と半分近くになつている。交通の便に

■原田 泰（はらだ・ゆたか）

- 1950年●東京都生まれ
- 1974年●東京大学農学部農業経済学科卒業  
経済企画庁入庁
- 経済企画庁国民生活局国民生活調査課長、同調査局海外調査課長、財務省財務総合政策研究所次長などを経て、内閣府経済社会総合研究所経済社会総合研究所総括政策研究官



対する不満は解消に向かうことになる。

住環境は、私たちの生活の基盤となる部分であり、生活の豊かさの面で非常に重要な要素である。これまで達成できていなかったゆとりのある快適な住環境が人口の減少によって実現する。

## 日本の豊かさは続く

日本の少子高齢化は否応なく進む。年金を負担してくれる若年世代は減少していく。この中で、これまでのような高い年金給付が維持できるはずがない。維持できない制度なら、すぐさま給付水準を減額すべきだ。少ない掛け金で高い給付が可能であったのは経済が急成長し、高齢世代が少なかったからだ。しかし、高成長は終わり、人口は減少していく。こんな制度は存続しえない。減額しても給付が確実になれば、むしろ生活不安はなくなるはずである。確実なものは不安定なものよりも価値がある。しかも、減額されても日本の年金は、世界一高い。失望することはない。豊かな日本は、そのまま残っている。

また、人口減少そのものが生活の豊かさに直結する。人口が減少し過密状態が緩和されれば、住環境や交通混雑は改善される。私たちは、所得の豊かさだけでなく、生活環境の面でも豊かさを享受できることになる。

人口減少は、今まで人口増加を前提に作られてきたさまざまな社会の仕組みを、少子高齢社会に適したものに変わっていくことを迫っている。一人当たりの生産性を高め、より多くの人々が働き、高齢社会のコストを削減すればよい。そのような改革ができれば、人口減少社会はむしろ楽しいものとなるだろう。

OB・OG が社長の会社探訪

【オイルス工業】  
世界初・世界一を目指す

佐藤英二 オイルス工業株式会社代表取締役社長

—佐藤社長のモットーは、何でしょうか。

私が、かねがね社員にも言い、自らにも言っているのは「世界初・世界一を目指せ」と……。非常に面映いフレーズに聞こえるかも知れませんが、でもたいしたことじゃないんです。

「世界初」って何かといえば、「特許を取れるようなもの」ということです。日本一だけでは、特許は取れないわけです。世界初じゃなければいけない。

では、特許だけでビジネスができるかという、売れなきゃいけませんよね。すると、次に「世界一」というのがないとだめなんです。桁違いに品質が良いとか、とてつもなく機能に優れているとか……。

そして、それらの技術が特許で保護されている。これこそが「世界初・世界一」です。

—今、何件ぐらいの特許があるのでしょうか。

私どもの会社は、もともと日本オイルス研究所を母胎にして発展してきました。創業者の川崎宗造は「常に研究あり」を社是にしておりましたので、研究開発には非常に力を入れていました。ですから、今でも売り上げの5%は研究開発に当てています。企業の飛躍には、研究なくしてあり得ないと思っています。

当社の目下の特許の取得件数は1,500件です。



■いろいろな種類のオイルレスベアリング

一般の方から見ますと、多いと思われそうですが、全然多くありません。社員が1,000人もいるのですから、一人1.5件しか出していないことになります。

そして、現在、市場に出している製品の47.5%が、特許でカバーされています。これを、3年以内に60%に高めようとしています。

当社は、2002年に創業50周年を迎えました。創業から50年を数えたからといって、これからの50年の寿命を保証されたものではありません。未来にとって、過去なんて関係ないわけです。これから未来に50年を存続していこうとするなら、そのぐらいのことをやっていかないとだめだと強く感じますね。

—主な事業内容を教えていただけますか。

基本の事業……コア・テクノロジーは、摩擦・摩耗・潤滑、つまり「オイルレスベアリング」です。「オイルス工業」も、oilless——油がない軸受、からきています。

オイルレスベアリングが、どこに使われるのかといいますと、まさに油があっては困るところです。例えば、水力発電所や浄水場などは、水が油に汚染されてしまうと困ります。また、高温の場所では、油があると困るというより、油がそもそも使えないのです。

最近では、パワーショベルにもオイルレスベアリングが使われています。今まではヒンジの部分にグリスを塗っていたんですが、油の要らない軸受なら土壌が油で汚染されないというわけです。

もう一つ、鉄道の……ポイントってありますよね。これも昔は油を塗っていたのですが、無給油化しました。地面に油が染み込まないようにということからの採用例です。

■オイルス工業株式会社

創業◎1939年(昭和14年)(1952年に株式会社となる)

創業者◎川崎宗造(1923年、工手学校機械科卒業)

事業内容◎樹脂系・金属系・複層オイルレスベアリング/免震・制振装置/住宅用窓機器/建築物用ウィンドーオペレーターなど  
加外拠点◎アメリカ、ドイツ、台湾、中国、タイ

経営理念◎オイルレスベアリングの総合メーカーとして  
世界のリーダーとなり、技術で社会に貢献する

—ということは、今、地下汚染が問題になっている折、地球環境保護の一翼を担っているのですね。

それを狙ったわけじゃありません。時代が求めてきたのですね。

「オイルレスベアリング」が進化して、時代に向かっていったのが「免震・制振」です。これが当社の二つ目の主な事業です。

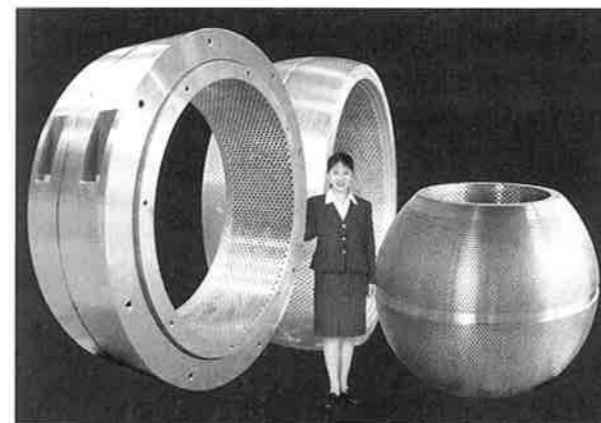
「免震」というのは、地震が来たときに、建物に力が入らないように基礎の部分に絶縁デバイスを置いておくんです。要するに、破壊を防ぐために、ゴムの積層の上に建物が乗っています。「制振」というのは、地震や台風で高層ビルが揺れるのを抑えるものです。

それと三つ目の柱として「建機」があります。これは窓の開閉システムで、例えば火事になったとき、煙を外へ排出するという製品です。

—「オイルレスベアリング」が環境保護だとしますと、「免震・制振」と「建機」は環境安全になりますね。

そういう気がしています。「オイルレスベアリング」が発展、進化していった、「免震・制振」や「建機」につながっていきました。

オイルレスベアリングは、もともと橋の支点にも使われていました。ブリッジベアリングといまして、橋が伸び縮みしたときに滑るよう



■長大橋梁などに用いられる大型オイルレスベアリング

■佐藤英二(さとう・えいじ)

1945年◎北海道生まれ

1968年◎工学院大学生産機械工学科卒業  
オイルス工業入社

2000年◎オイルス工業取締役社長就任



に……。そこに免震装置を加えることにより、橋が倒壊するのを防げるようになりました。

ですから、1995年の阪神・淡路大震災で、当社の免震装置を施した橋は一つも倒壊していません。それがいろいろなところから認められて、今日の市民権が得られているのだと思います。

技術というのは、低迷していたんではだめで、やはり常に進化して、新しいものを生み出していかないと成長もできません。

かといって、現状に満足しているわけでは全くありません。非常に強い危機感を持っています。先程も申しましたが、3年、5年、10年という先に、もっともっと成長していなければ存続できないわけですから……。

—最後に、オイルス工業さんが求める新入社員像を、お聞かせ下さい。

工学部に入る人は、工科系の勉強とか、ものづくりが好きなんですよ。好きこそものの上手なれ”です。まず、好きになることです。少なくとも、専門には喜んで取り組むぐらいの意欲を持った人間が欲しいです。好きにさえなってくれば、技術も知識も磨かれますよ。

当社の研究開発部門は日本とアメリカにあるだけで、その点ではまだグローバル化していませんけれども、求められるエンジニアのレベルは、国際基礎工学科のようなものをマスターした優秀な人です。

でも、どんなに優秀でも、意欲のない人は……当社に限らず、必要としていません。ですから、後輩には意欲を持つ人間になって欲しいのと、大学にはそういう教育をぜひしていただきたいと思っています。

とにかくアグレッシブに、勉強にも、仕事にも、人生にも向かっていって下さい。



# 21世紀の技術と人間

## —座談会②— OB、大いに語る

—景気の低迷が続いており、皆さんの会社も大変だとは思いますが、今の社会を通して感じることを、「でも頑張れよ」と校友たちに勇気と希望を与えるメッセージを、お願いします。

### ■人や自然に対する思いやりが必要

**豊田**◎現在、110人の社員を有する会社の経営をしています。見方によっては、世の中が総じて夢や希望を持ってない状況ですが、こんな時こそ、生きている意味を探求する必要があるのじゃないでしょうか。



■豊田 実(とよだ・みのる)  
1983年、大学・機械工学科卒業

そして人生、今を生きる大切さを伝える必要性を感じます。何故なら、未来というのは今の自分の心が創造しているからです。今、もの作りの技術屋さんに欠けているのは、本当の意味での思いやりではないでしょうか。当たり前のことですが、人に対する、自然に対する思いやりや調和の心がベースに必要なだと思います。お金さえ儲かればなんでもよいという考え方で破滅に向かうだけです。この壊滅的な人類の状況を変えるには、我々一人一人の心のあり方を変えなければならないと思います。そのためにまず自らが変わることですね。

**高木**◎日本電子に29年勤務後、タカラバイオ(元宝酒造バイオ事業部門)へ移り8年になります。

校友たちに「勇気と希望を与えるメッセージ」とのことですが、正直言って、こちらの方が頂戴したいほどですね。確かに、社会へ出たての頃は学校で学んだことが、すぐに役立つように思いましたよ。職種にもよりますが、今、私が携わっているバイオに関してはおおよそ学生時代に学んだことは役に立っていませんね。今までに存在しなかった産業を考えているからです。

私の講演では、「どのようなバックグラウンドで、どのような学生を期待しますか」との質問が判で押したように出ますが、私は「健康でやる気のある人間」と言っています。もう少し言わせていただければ「と

ことんヤル人間」です。失礼かも知れませんが、今流の学校教育に期待はしていませんね。会社は企業競争に勝たなければなりませんし、綺麗ごとではありませんからね。世界的な競争です。それには特許を取らなければなりません。乱暴な言い方ですが研究者の成果を給料で買い取るわけですよ。ですから、学生気分では落伍しますよね。今、大きく欧米に遅れをとった「IT」、「Bio」や「医療」の成否は特許に依存するところが多々です。

タカラバイオは、10年前に京都の予備校と協力し「京都バイオ専門学校」を開校し、毎年100人のバイオテクニシャンを輩出しております。そして、平成15年度春に滋賀県長浜市のサイエンスパークに、日本でただ一つのバイオ系単科大学「長浜バイオ大学」を開校します。5年後には大学院と大学付属研究所の設置を目指しています。高度なバイオ技術者を育成するために遺伝子生命、分子生命、細胞生命、生命情報、環境生命の各科学コースを設置し海外を含めて200人を募集します。

**工藤**◎岩手校友会支部長をやっております。99%土木工事、風車の研究もやっています。二つある、一つ目は目的、目標を持つこと。失敗を恐れずチャレンジすること。二つ目は、会社の経営の面白さを知って欲しい。何よりもスピードが勝負。経営者になりなさい。企業経営を目指して……。



■工藤 一博(くどう・かずひろ)  
1975年、大学・電気工学科卒業

**笠原**◎私が今の会社に入った理由は、工学院大学に創立者の子息・川崎景民さん(当時常務)と機械工学科OBの佐野順一さんが来校して会社説明会をされたことによります。

創立者は工手学校の卒業生で川崎宗造といいますが、この方は50年前の校友会誌第2号で紹介されています。私が入社したときの社員は140人でしたが今では1,000人を超え、東証1部に上場するまでになりました。現在の社長は機械工学科44年卒業の佐藤英二さ

**安沢取太郎**

**太田定吉**(日本抵抗線)

**笠原又一**(オイレス工業)

**加藤修一**(久米設計・技術情報部)

**菊地徳悟**

**工藤一博**(工藤建設)

**塩野博万**(塩野製作所)

**新藤周一**(前田建設工業)

**高木成幸**(宝酒造・バイオ営業部)

**豊田 実**(トヨタ工機)

[司会] 校友会広報部

んです。

会社の発展はトップが大会社にすることが目的ではなく、自社の専門の技術トライポロジーを常に磨き世界一になる夢を持っていたことを目的にしたことと思います。



■笠原又一(かさほら・またいち)  
1963年、大学・機械工学科卒業

創立者は自分が大学に入れなかったので、会社の若い人で大学に行けなかった人を工学院の専修学校・専門学校に通わせていました。その総数は60人を超えていますが、これも人間の質を高めるのが目的でした。

それに、個人としては信頼されるプロとしての自覚を持つことが大事ですね。会社を辞めてもプロとしての勉強は続けたいと思います。また、人間関係が大事ですが目の前のことにかかわりすぎておろそかにしがちですね。私は湘南支部の校友会活動でも懇親会を大事にしますが、それは人が集まることが重要だからです。次に勉強会なども楽しく開催するように努めていますが、これは参集された方の将来のためです。

### ■企業はチャレンジ精神のある人を求める

**加藤**◎工学院卒業後3年目に「中央大学多摩キャンパス計画」に参画し、以後、「東戸塚駅東口開発計画」「恵比須ガーデンプレイス」「文京グリーンコート」などの大規模開発計画に携わってきました。その関連で、都市計画で技術士を取得しています。

当事務所の今年の就職戦線を見ますと、意匠設計で全国各地の大学院から70人が受験して、6人採用という厳しい状況にあります。工学院大学の採用も、残念ながらここ数年、遠のいています。

企業がどのような学生を求めているかといえば、「チャレンジ精神のある、向上心のある学生」です。このことは、各企業、共通していると思います。技術者教育で期待するのは、「根気よく、コツコツ

努力する人」を育てて欲しいです。そして、自分の技術が人のために生きるということを教えて欲しい。工学院大学に期待することは、常に成長点を持ち続けて欲しいのです。そうしないと、大学に限らず、企業もこれからは維持できなくなるように思います。大学における成長点とは、若い人材です。若い人材が魅力を感じてここへ行ってみたい、ここへ行きたいと集まる大学でないと、恐らく発展しなくなる。

本学園の広報誌である『窓』も、かつては伊藤先生、高山先生、松浦先生などが学園の将来を熱く語っていました。今、その頃の熱気が感じられなくなってしまいました。若い人を引きつける力を持った情報を発信していくことが大切ではないかと感じています。**新藤**◎建設産業は現在、大変厳しい環境におかれています。その影響で、最近の卒業生名簿を見ても、就職に非常に苦戦しているのが分かります。

最近の新入社員の印象は、パソコンなどによる表現力、CAD操作能力は大変向上しております。しかし反面、スケッチ力が劣ってきているように思われます。企業内において実践の能力育成に力を入れておりますが、やはり建築の基礎教育が非常に重要だと思います。

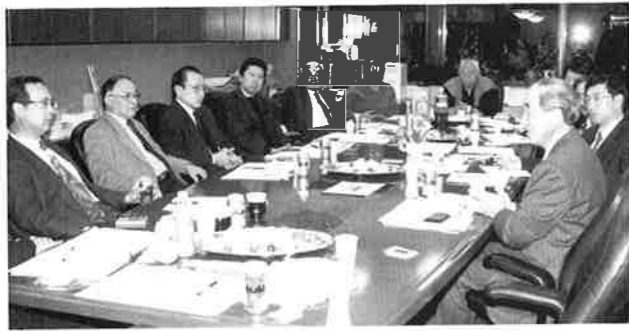
**太田**◎工学院専門学校、産能大も、日本抵抗線では、9ミクロンの技術として勝負しています。校友会の川崎支部長も努めています。



■太田定吉(おた・さだきち)  
1956年、専門・電気科卒業

中国に会社が移っていく傾向がありますが、プレス関係でも人件費などの理由で中国に出たら、いいわけがあるわけじゃない、だめになっています。

為替関係の勉強もしないとだめです。教育で教えるべきです。日本の国の常識でない、その国でない、その国との付き合いで取り組んだことを、現実の問題を教える必要があります。失敗する人を見ると、子どもの教育が遅れています。小さい子どもの躾をするのは大変ですが、大事なのできちんとすべき



です。外国の方がしっかりしているケースが多く、日本が意外とだめです。小さい時の躰は良い、悪いを教える……人を殺すとか、新しい教育になってだめになったと思います。

**塩野**●私の会社の事業内容は通信機器、特に人工衛星搭載のマイクロ波関係の部品、航空機エンジン回りの部品、燃料パイプの継ぎ手など、金属切削加工を行っています。設備は、旋盤、フライスははじめに機械は50台余り、なかでもマシニングセンターを、21台・24時間稼働させています。



■塩野博万(しおのひろかず) 1982年、専門・機械科卒業

最近、私どもの業界では、空洞化という問題が浮き彫りになってきています。中国は確かに人件費が安く、人材はいくらでも調達できますが、品質管理の手法や人材投入という考え方は長く使えません。日本国内では、合理化、省力化で人件費をかけないで品質管理を行い、2~3割の効率化を行えば十分に国際競争力は得られます。国内でのニーズは、まだいっぱいあります。

大手企業の設計部門では、大卒でCADを使いインパクトのない図面を描いています。削りを知らないで設計するから、必要な精度をどこに設定したら良いかわからないようです。ものづくりの根底を理解していないんですね。ものを作って楽しいと思える教育が必要だと思います。ものづくりの原点を教え、社会へ送り出す教育が必要なんじゃないでしょうか。

**安沢**●昭和31年卒業。工作機械メーカー(グラインダー)に勤務し、昭和53年にマキノフライスの傘下の会社に10年勤務、現在は独立して、機械設計の仕事を行っています。知的所有権が大事です。

昔、工学院は、中小企業の息子が多かったです。最近、一般化しました。独立独歩のCAD10年間でおかしくなりました。CADを使い、自分で考えることが大事です。フリーハンドで描いて、この構想をもと

に、時間をかけてできる。今の機械科の学生の教育は、中国残留孤児のようになってしまうと、先々怖いと思います。工作機械でも日本の企業、外国でも同じCADソフト、同じでやって人件費の安い方にびきます。これからの中小企業は自分たちで創意工夫して、技術者を育て、独自のソフトを開発する必要があります。



■安沢収太郎(あんざわしゅうたろう) / 1955年、高校卒業

**菊地**●建築設備の会社に勤めていましたが、65歳で定年となり、現在はフリーで武道(柔道、合気道)にいそしんでいます。

日本は社会やモノが発達しましたが、心が無くなったような気がします。人間復興が必要なんじゃないでしょうか。諸外国人で日本の武道を習いに来ているのですが、みんな武道の心を学んでいますよ。

人間復興は、心の問題だと思います。そして、母校は心のオアシス……癒せる、心の拠り所ですよ。でも、体育会OBの立食パーティで体験したのですが、形式に捉えられていて、内容がない。特に、在校生に礼儀ができないのが多いです。合気道部の廃部は非常に残念です。復興に努力したい。

**豊田**●今の大学生に対してですが、主体的に生きるということはどういうことなのかを考え、そして真に主体的に生きて欲しいですね。教育現場でも共に考え、サポートしてもらいたいですね。何となく流されて生きるのではなく、自らの人生の目的を見出し、それに向かって主体的に生きる。自分が本当にやりたいこと、したいことは何か?

受動的な生き方から能動的な生き方への転換は、人間を生き生きと、命を輝かせます。自然の中から命を洞察することや、大学の教育現場では必修である哲学や思想を教え、洋の東西を問わず先人たちの智慧を学び、命の大切さを知って欲しいですね。

何故なら我々人間は憎しみあうために生まれてきたのではなく、尊重し合い、愛し合うために生きてい

るのでから……。

**新藤**●建設業の設計の視点からお話ししますと、現在、設計・施工の一貫生産システムとして設計段階の電子情報をいかに竣工後に活用するか、重複作業をなくし図面を統合化し、生産性を向上させることが課題です。その時間を川上である計画・設計段階に時間をシフトすることが重要と考えます。

**高木**●先に「健康でやる気」「学生時代の経験は役に立たない」と話しました。誤解のないように説明いたしますと、今の学生はPC(パソコン)を分身のように使う教育を受けています。これは、素晴らしいツールを身につけていることになります。次世代産業とPCは、ますます相補関係が強まるものと思います。



■高木成幸(たかぎしげゆき) 1966年、大学・工業化学科卒業

昨今の技術の進歩は余りにも早いため、産業にも大きな変化が生じています。私のバイオテクノロジーの世界では、自動車と同じように動物もいろいろな部品から成り立っていると考えるわけですよ。エンジン、車輪、排気系……と同様に、自分の(拒絶反応のない)手足、各臓器や皮膚、目……などをバイオ技術で製造可能になってきています。

そればかりではなく、動物(人間を含む)そのものまでも造れるのです。すでに家畜では商業化されています。いわゆる、クローン技術です。また病気を治す薬(抗体試薬)などは、牛や象を使い大型製薬工場として実用化されつつあります。豚に人間の肝臓や、ヒト皮膚細胞を培養して、皮膚移植などは昨今TV番組で放映されているところです。

### ■人間という知的財産を活用せよ

**笠原**●私が人間関係を重視する理由は、それぞれが努力しているものを持っていてもお互いに知らない場合が多く、また誰かに聞きたいことがあっても誰に聞いていいかわからないといったことがあり、非

常に機会損失が多いのではないかと考えるからです。

一例を挙げますと、私が機械工学同窓会の名簿を担当していたとき普通の印刷物では分厚いものになり発送賃も馬鹿にならないので困っていました。そのとき会員の一人がCDに簡単にできるよとのことで、早速それに飛びついたということでCD化が始まり、今校友会で作っているように機械工学科だけではなく全OBのデータを入れても製作コストも発送費用も安くなったわけです。もしこのような場がなければ私は今まで通り進歩なしで終わったと思います。ですから校友会の支部でも大学においてもそのような出会いの場所をつくるのが大事と考えているのです。

私はホームページやインターネットを活用して校友会の社会人データベースを作りたいと思っています。OBには素晴らしい方がたくさんいらっしゃいますし、相互支援をやりやすくするシステムがあればいいのです。学生でも気軽に問い合わせることのできるようなものですね。日本は人間という知的財産がいっぱいあるのに活用が不十分で川の水のように無駄に流してしまっているのではないかと危惧しています。

**塩野**●ある荒れた中学校の話ですけれども、先生は、生徒に注意をしないそうです。そんなのは、家庭でやって下さいという。教育する立場の人間が、社会人としての教育がなっていない。

もっとも、悪いことをしていても、その場で注意しないというのは、中学校の先生に限ったことじゃありませんが……。

**菊地**●今の社会は、大人がだらしない。大人は、後姿で示す。少年柔道教室なんかでも、更衣室の中でいじめる。底辺から直す必要がありますね。儲けることや贅沢することばかりを考えているからダメになるんで、これも心の問題だと思います。



■菊地徳悟(きくちとくご) 1955年、高校卒業

21世紀の技術と人間

**太田**●川崎支部では、昨年の10月26と27日にセミナーを行いました。校友会には土地があるのですから、家族旅行ができるように施設を作ってははどうでしょう。卒業生が利用できる施設を、ぜひお願いしたい。

■これからは知的所有権特許が大事

**加藤**●この夏、JIA(日本建築家協会)で、建築系7大学(工学院大、武工大、芝工大、電機大、理科大、法大、日大)の大学院生を対象にしたオープンスクールの講師として、大規模開発を担当しました。我が国を代表する大手設計事務所4社が、各4~5人の講師で5日間、実務体験の実際を伝えているのです。最終日の学生と講師の懇親会で、大学の授業でこのような話は一度も聞けなかった。学校で学ぶことは、建築のほんの一部にすぎないことが分かった、という意見を聞きました。



■加藤修一(かとうしゅういち) 1970年、大学・建築学科卒業

工学院は歴史もあり、実務の実際や体験談を伝えていったらよいのではないのでしょうか。そのことで、考える力や学ぶ姿勢、基礎学力の大切さを知る機会ができるのではないかと考えています。

**高木**●我が国の一部IT産業は、東南アジア諸国に追い抜かれてしまいました。バイオはそのようにならないために政府は「BT-Japan」として、産業立国戦略を平成15年に打ち出します。即ち「2010年までにバイオベンチャー1,000社の創出と10万人の新たな雇用」です。

これらに関しては、工学院大学化学系の学生に「世紀を超えて発展するバイオテクノロジー」のタイトルで一部講演させていただいたところです。工学院大学の化学系では、応化会が主催して、卒業生による講演会を年に2回ほど開催しています。

**新藤**●大学教育のなかで、「ものづくり」の基礎的な考え方を思考する時期であり、同時にCADを活用した設計行為のシステムの構築を視



■新藤周一(しんどうしゅういち) 1969年、大学・建築学科卒業

野に入れて勉強していただきたいと思います。

**豊田**●私はクリスチャンではありませんが、イエスキリストは「求めよ、さらば与えられん」と言われました。同窓の皆さん、我々は人間として、素晴らしい人類を創造することを求めようではありませんか。さすれば必ず与えられます。

それにはまず、世間や他人に原因を求め、他責にするのではなく、自らの心に全ての原因を求め、自分の心のあり方を見つめ、正すことから始めましょう。

**高木**●先頃の新報紙上を大変に賑わした「青色LED特許係争」の話題がありましたね。カルフォルニア大学の中村教授が原告として日亜化学工業を訴えた裁判です。日本は特許に対して特異的な文化がありますよね。特許を申請しない・弁理士が少ない・時間がかかる・権利者は社長で(発明者の権利放棄)。また、大学は教育をするところであって特許を取る所ではないとか……。

今後、特許に関する大学の意識が大幅に変わるといいますよ。TLO(技術移転)に対する税の優遇・支援制度の導入、また企業において優位に製造・販売するためには特許の相互使用(ライセンスのイン・アウト)、さらに、薬の開発過程で良く使われる用語としてはマイレージストーンです。製剤開発の段階(フェーズ)に従って、多額な金額を払い込むシステムです。薬一つの開発に10年・100億円と言われています。私は、日本の国民医療制度の困窮は一部このようなところにあると思いますよ(他国の特許権利使用)。

過去においては、生命に関わる医療器具は特許の対象になりませんでした。今は違います。特許権取得は企業対企業の競争ばかりではなく、国対国の競争になっています。先日ノーベル生理学賞を受賞した利根川氏と帝国ホテルでお会いしました。DNAチップの特許使用権の話でした。アイデア、特許を提供して研究費を捻出する交渉でした。すさまじいものです。

**笠原**●知的所有権のうち、特許は大事です。私の会社では工学院OBの10年先輩の故・山下一郎さんが特許部長でした。特許保有件数は出願中も入れて1,200件くらいで、そのうち40%くらいが外国特許です。

これからの特に外国との競争は知的所有権を軽視しては成り立ちません。

TOPICS

NHK「ロボコン」に、工学院大学チーム出場

わが工学院大学のロボコン・チーム「Team256」が、NHKの「ロボコン」の出場が決定しました。

出場に向けて、緊張感がみなぎる製作中の現場を訪ねてみました。



—今回のメンバーは?

20人です。大学の電子工学、電気工学、機械システム工学、機械工学、情報工学科から参加しています。女性が二人いて、機械システム工学科の学生です。顧問は、電気工学科の横山修一教授です。

—番組に出演までの流れは?

NHKでは、2002年(平成14年)4月に募集要項を発表、9月に書類募集を開始し、12月に締め切られました。審査は12月中に終わり、最終審査ともいえるべきビデオ審査が今年3月下旬から4月上旬に行われました。本番は、6月です。

工学院大学は、4チームが応募し、書類審査で1チームが残りました。外れた3チームは、ビデオづくりを手伝い、もちろん本番でも応援に駆けつけます。

応募した大学数は70校で、20校が本番へ進みました。新潟、明治、愛知、鹿児島、九州、広島、三重、ものづくり大学……などです。

—今回の具体的プランは?

まだ予定ですが、「獅子ロボット」1台、「赤提灯ロボット」2台、「太鼓ロボット」2台の計5台を動かそうと思っています。大会の制限は、高さ2m、重量50kgです。材質は自由なのですが、わがチームはアルミニウムが主体です。

—ロボコンとは?

中堅企業などでは、ものづくりを担う人が少なくなってきました。その企業へ進む大学生を目覚めさせ、自己実現できる人材育成が狙いです。ものづくりの支援ですね。

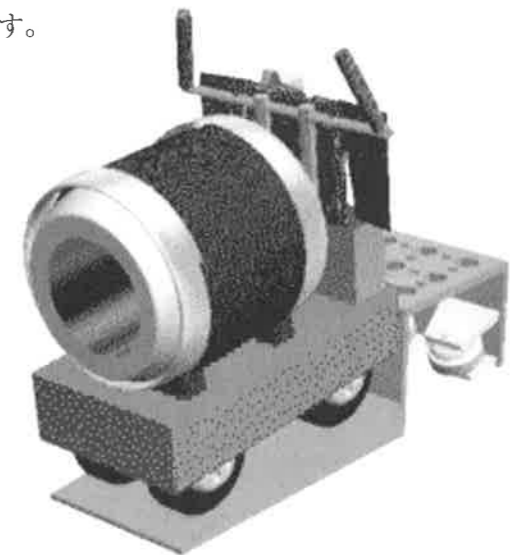
—ロボコンの魅力は?

最終的にはロボットをつくって操作するのが楽しいわけですが、チームのなかで人間関係も学べるところが貴重です。会議の進行などのスケジュールを立てるのも難しいので、ロボットの前に計画を詳細に組み立てます。計画、立案、実行……みんなクローズドしているんですね。

また、チームは完全に分業化しています。会計、記録係……、ホームページに関しては、プロジェクトKという別のグループにバックアップしていただいています。



■獅子舞——手動マシンとして活躍します。実際に眼は光りません



■ドンドン太鼓——小型の自動マシンです。自動マシンゾーンの外側の木枠を伝って走り、「いよ〜」という掛け声とともにタクロールを飛ばします

—何故、ロボコン？

ロボコンが好きで、入試のパンフレットにロボコンが出ていたので、工学院大学に入ったというケースが多いです。さらに、大学院で研究したくなります。

忙しいけれども、面白い。就職にも有利です。自己表現の向上にも役立ちます。

—部品から学生たちがつくる？

はい。怪我をしないように、安全第一で製作しています。

—場所は？

今まで、八王子のロボコン教室はプレハブでやっていたのですが、なくなっていました。クラブの物置を片付けて使えるようにしたいです。

新宿校舎の方には、16階に専用教室がありますが、将来的には“夢工房”を建てて欲しいです。



■ちょうちん——大型の自動マシンです。「ドンドン太鼓」と同様に、外側の木枠を伝い、ゴールのネットに取り付き、一度に6ゴールを決めます

—ロボコンはサークルですか、クラブですか？

任意団体ですから、サークルでもクラブでもありません。1年単位で解散します。

—いろいろな学科が集まったチームですね？

3~4カ月で力で勝負しなければなりませんから、いろいろな分野の頭脳と努力が必要となります。

でも、学年末試験の12~1月は、活動は休みです。また、4年生は、卒論があるので参加しません。

□■□

皆さん、“工学院大学ここにあり!”として活躍して下さい。校友の皆さんも、ぜひテレビの前で応援して下さい。

■2003年・NHKロボコン班「Team256」 (2002年現在)

氏名	学科	担当
鈴木亮介	機械システム工学科2年	リーダー&プログラム
孫 亮	機械システム工学科2年	サブリーダー&回路
奥山隆行	機械システム工学科2年	機構リーダー
藤垣吉章	機械システム工学科2年	プログラムリーダー
山田洋平	機械システム工学科2年	会計&機構
谷本景子	機械システム工学科2年	機構
工藤英樹	機械工学科2年	機構
錦織 篤	機械工学科2年	回路
白井正樹	機械工学科2年	機構
一尾沙貴子	機械システム工学科2年	プログラム
水上秀典	電気工学科2年	HP管理
野木雅之	電気工学科1年	回路
村木研司	電気工学科3年	回路
小平圭佑	機械システム工学科3年	回路
渡邊恭成	機械システム工学科3年	機構
松田光弘	電気工学科3年	回路
大下弘和	電気工学科3年	プログラム
高山祥央	電気工学科3年	機構
高野時扶	電気工学科3年	プログラム
高橋篤	情報工学科2年	プログラム



■「ロボコン」で優勝するぞ！（新宿校舎16階の専用教室にて）

アピールポイント①：空中にロマンを！

我々のチームはダイナミックに魅せて、大量得点を稼ぐのだ！  
相手マシンが場所求めて争うのをよそに、赤ちょーちんを展開し  
空中から直接ゴールを狙う。



アピールポイント②：レール高速移動！

決められた道を進む必要はない。  
時には自分の前に立ちふさがる壁さえも生きたるには利用するのだ。  
私達のチームのマシンは、他のマシンが一般に辿るライトレース移動に頼りっ  
きりにはならない。  
手動と自動マシンの枠を裂くようなじゃまな壁を利用して着実に早く安定した  
高速移動を実現する。



ちょうちんが灯る



日本の祭り



ししまいの目が輝く



太鼓が轟き響く！

アピールポイント③：こんなロボット見てみたい！

ロボコンのロボットはただ、ロボコンに勝てばいいというものではない。  
コンテストの名が示すように、会場を沸かせなければならない。  
観客の子想を裏切る動き。  
一度見たら忘れられない、子供があこがれるデザイン。  
光と音でコミカルな動きに華を添える。  
そんな自分達が創りたい見てみたいロボットがここにある！

## 寄稿①

## 夏炉冬扇——喜びのある教育

岩原康夫 工学院大学共通課程外国科教授



昨年の秋、アメリカ詩に関係する小さな学会の全国大会を本学で開催した。

プログラムや大会の準備にも苦労したが、何よりも学会当日の運営をどうするかということは、頭の痛いことであった。幸いわたしの英語の自由研究科目に参加している10人ほどの学生が手伝ってくれ、会場への案内表示、受付、会場の司会のアシスタント、コーヒー・ブレイクのサービスなどを担当してくれた。

また、会場には私の「英語」や「世界の文学」を受講した学生が聴講してくれ、それなりの賑わいを見せ、プログラム通りに長嶋秀世副学長の挨拶から懇親会まで無事終了した。特に、うれしかったことは、懇親会の席で、多くの他大学の教員から、手伝ってくれた学生が実に手際よく会場の運営をし、よく訓練されていると褒められたことだ。実際、彼らは、自らの役割に従って、会場や案内表示の後片付けまで何の遺漏もなく対処してくれ、特別講演の司会を抱えていたわたしは本当に助かった。

これには余談があって、大会が終了して数日経ってから、学会の事務局を領かっている愛知学院大学の教員と話す機会があり、彼から「工学院大学の学生さんは皆、目が輝いており、自分のところの学生もあのようにしなければならない」と教務部長に報告したところだ」と言われた。

実はこの小さな学会の一昨年の会場校は、この愛知学院大学で、その際にも数人の学生が会場の手伝いをしていた。だから、この事務局を預かる教員は、私の10人の学生と比較していたのであろう。

■□■

この10人の学生グループは、自由研究科目のゼミの学生であるが、実はその核になっていたのは木曜日の夜に行っている「古典を読む」という目的で集まった読書会の学生でもある。この読書会は、実は1年生で教えた学生が、どういうわけか2年生になっても、毎週火曜日の昼休みにグループになって、私のところにやってきて、留学や英語や本や人

生などの話をしているうちに自然発生的にできたものである。

西洋の古典を中心に『聖書』、プラトンの『ソクラテスの弁明』、ソポクレスの『オイディプス王』などの翻訳を読み、ディスカッションをする。なかなか刺激的で、すでに老人の部類に入った私が過去に置いてきたような質問や意見に遭遇する。その意味で、このグループの学生の「目が輝き」、生き生きしていたのは、偶然でないかもしれない。

■□■

私は、本学に非常勤も含めると27年近く勤め、そろそろ幕引を考えねばならない年齢になっているが、学会の手伝いをしてくれた学生と同じような教え子にずっと恵まれてきたように思う。今でも専任になって最初の年に教えた英語の自主ゼミ(当時は自由研究科目はカリキュラムに存在しなかった)のOBと毎年会食する。40代後半から50代になる彼らは、半導体のメッキの中小企業で取締役をしたり、カルロス・ゴーンの新しい日産で課長をしたり、練馬区の区議をしたりしているOBである。この最初のOBの世代と出会った当時は、わたしはまだ30代後半と若かったので、2部の授業が終わってから、英語の勉強会をして、さらに飲み食いに出掛けた。また夏休みには、毎年、富士吉田の学寮を使って、英語のゼミの合宿をしたものである。年によって出会いの濃淡や付き合い方に多少の変化はあっても、研究と講義と同時に学生との繋がりが工学院大学で過ごした主要部分をなしているように思う。それは、何も私が世話をするとといった一方的なことではなく(確かに仲人などもよくやりはした)、私自身も喜びをもらうような関係であった。二度にわたって、私の本の出版記念のパーティを開いてくれたのも、実は教え子である。

■□■

私自身は、あまり社会的な実用には寄与しそうなアメリカの詩や小説やモダニズム、そして海外のハイクなどを研究し、共通課程の外国語科に席を

■岩原康夫(いわはら・やすお)

1940年生まれ/慶応義塾大学法学部法律学科卒業/早稲田大学文学部演劇専修卒業/南カリフォルニア大学文学部大学院比較文学研究科修士課程修了

研究分野 ● 英米現代詩・海外ハイク

日本英文学会会員/日本アメリカ文学会会員

日本エズラ・パウンド協会理事およびEzra Pound Review編集委員

主な著書 ● 「消えた微光」(エズラ・パウンド) 翻訳・解説(共著)

『仮面』(エズラ・パウンド) 翻訳・解説(共著)

において、英語や文学を担当する身である。だから、比較的、教育目的が実用的な工科系の単科大学ではどうしても「夏炉冬扇」のような存在である。この自覚は、工学院の一員になった最初からあり、無用なりの用を求めた。

そこで、二つのささやかな目標を立てた。その一つは、アメリカの大学院で訓練を受けた論文の英語を多少なりとも教えることであり、もう一つは学生や卒業生が訪れないような教員になるまいということである。

卒論指導のゼミのような師弟関係まで築き得たかどうかは、分からないが、このこつこのつ目標を追求しながら、工学院大学で学生と喜びを分かち合える出会いがあった。喜びのない教育は不毛なのである。これは学生にも教員にも言えることである。あるべき大学像や教員像は、この問題を考える人の数だけあるだろうが、私は学生と喜びを共有する実践の教育しか信用しない。大学という場における人間の出会いや生きる喜びが、知る喜びや物をつくる喜びの芽であり、またその実につながることを願わずにはおれない。



## 寄稿②

## 科学技術と倫理

林 真理 工学院大学共通課程一般教育部助教授

近年、「科学技術と倫理」あるいは「技術者倫理」といったものが、急激に注目を集めるようになってきています。たとえば旧科学技術庁科学技術会議が発足させた「21世紀の社会と科学技術を考える懇談会」のまとめた最終報告の中でも「科学技術関係者の社会的責任と倫理」が、一つの重要な項目に位置付けられています。

また、「裏マニュアル」を作成して危険な手順で操業を続けていたJCOの事故や、長期にわたって続いていたことが内部告発をきっかけに発覚した東京電力のトラブル隠し、三菱自動車のリコール隠し等々、さまざまな問題が新聞紙上を賑わせるようになったことが、こういった「技術者倫理」の必要性を社会に知らしめたとも言えます。倫理性に欠けると思われる社会的な事件が頻繁に見られるようになった(というより明らかになるようになってきた)ことが、この動きに影響しているとは間違いではないでしょう。

さらに「技術者倫理」は、大学教育においても問題になってきています。日本技術者教育認定機構(JABEE)が学習・教育目標の基準に「技術者倫理」を挙げており、したがってカリキュラムのJABEE認定を求める大学工学部においては、そういった基準に対応した授業内容が求められるようになってきているからです。実際に技術者倫理や工学倫理をタイトルの一部に掲げた教科書が、アメリカのテキストの翻訳から始まって多数出版されてもいます。工学院大学でも、2001年度の国際基礎工学科を初めとして、多くの学科がJABEE認定を考えており、必然的に教育内容に「倫理」的な部分が含まれるようになってきています。

■□■

こういった「倫理の流行」とも言える現状があります。しかし、これは単に一時的な現象であると考えられるべきではないと思われます。というのも、問われているのは「倫理」の中身であり、それは時代と社会の大きな変化に対応したものになっているから



■林 真理 (はやし まこと)  
 1963年 岡山県倉敷市生まれ  
 1992年 東京大学大学院理学系研究科科学史科学基礎論専攻博士課程退学  
 1997年 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻助手  
 1999年 工学院大学共通課程一般教育部専任講師  
 2002年 同助教授、現在に至る  
 担当科目 倫理学の基礎、科学技術と倫理、近代科学の成立、科学と社会、科学思想

です。

「技術者倫理」というと、技術者が襟を正して自らの行いを反省すべき問題であると考えられるかも知れませんが、もしそうであれば、社会や制度の問題というより技術者個人の気持ちの持ち方の問題ということになります。しかし、もしそういったことであれば、多くの技術者の人々にはこれまでも倫理的に行動してきたという自負があるのではないのでしょうか。また、内容としてもこれまでも言われてきたことの蒸し返しに過ぎません。もちろんそういった問題もなくなったわけではないでしょう。しかし、現在、新たに言われている倫理の問題は、個人の資質の問題に還元できないところにこそあるとされています。

たとえば、「情報公開」あるいは「説明責任」といったことが言われるようになってきています。こういった概念は、専門家と非専門家との関係についての社会の考え方が、大きく変化してきたことを示すものと言えます。非専門家は素人であり、他方、専門家はその道のプロなのだから、正しい判断を下すことができるのは専門家の方であり、素人はそれに口を出す必要はない、そのかわり責任も専門家が取るというのが一つの貫いた考え方でした。これは一つの倫理のあり方だと思います。



それに対して、科学技術政策への市民の参加、住民参加による環境保護といった考え方が出てきています。専門家は非専門家に対してできる限り情報を公開すべきであり、科学技術の発展や市民生活に関わる新しい科学技術の導入については専門家だけが決める問題ではなく、むしろ開かれた話し合いや判断が必要になるという考え方です。責任も専門家だけが負うものではないということになります。具体的な場面では非常に難しい点もありますし、技術内容によって多様な問題がでてきます。しかし、一般的に言ってこういった考え方が強くなってきていることは確かです。

以上のようなことは一例に過ぎません。しかし、こういった行為が倫理的なのかという倫理内容自体が変化しているというのが現代の課題なのです。したがって、一人一人が胸に手を当てて良心に従っているかどうかを考えるだけは倫理的ではありえないということになります。

結局、単に決められた規則に従うとか、今ある技術を最適形で世に出すということだけでなく、どんな技術が本当に「よい」技術なのか、それをしっかり考えるということこそが、言葉の真の意味での倫理に他なりません。こういった「公共性」の考え方に根ざした倫理というものが求められています。そして、そういった広い意味での倫理的な判断ができるような、人間や社会に対する知識と洞察力をもった技術者を育てることが、工学院大学という教育機関の社会的使命になってきているのではないのでしょうか。



## 理科教室 ——八王子キャンパス

「第9回理科教室」が、2002年8月24日(土)・25日(日)の2日間、八王子キャンパスで開催されました。



この行事は、近年、子どもたちの理科離れが進むなか、子どもたちに実験を通して理科の楽しさに興味を持ってもらうため、全国の大学に先駆けて工学院大学が9年前から行っているものです。現在

では、八王子市や日野市などの後援を受け、多摩地区での重要な行事となっています。

2日間とも天気に恵まれ(暑いくらい)、参加者は過去最高の7,814人(昨年度比、1,186人増:大学広報部調査)でした。特に、24日は各会場とも満員で、1時間待ちの状態もあり、指導された先生方も忙しく対応に追われていました。子どもたちは「実験は面白く楽しかった」「将来はノーベル賞」など、また同行された保護者は「子どもと一緒に実験ができ有意義な一日でした」などと語っていました。

2003年も8月23日・24日に第10回目を迎え、大学では盛大に行いますので、校友の方々も見学されたいかがでしょうか。



学  
★  
国  
★  
か  
★  
ら

## 国際新技術フェア2002 ——機械システム工学科+電気工学科



■丹羽直毅教授  
(機械システム工学科)



■鷹野一朗助教授  
(電気工学科)

今年で第4回となった国際新技術フェア(開催日:2002年9月25日(水)~27日(金)/会場:東京ビックサイト)に、本学の機械システム工学科メカトロニクス要素研究室1(丹羽研究室)と、電気工学科電気応用システム研究室が参加しました。今回はナノテク・材料フェア2002が併催され、特別企画として「研究開発成果説明会」「原子力研究開発ゾーン」「光触媒ゾーン」などが設けられていました。

出展数は民間:75社、政府系・公的研究機関:50機関、大学・研究室・専門校30校で、展示ブースは246小間、入場者数は3日間で延べ3万7,351人へのほり、産官学連携を探るための情報交換が活発に行われました。

機械システム工学科メカトロニクス要素研究室1のブースでは、研究室で開発した新しいコーティ

ング技術「超音速フリージェットPVD法」の紹介のためのパネル展示が行われました。また、25日には展示場内特設会場において「超音速フリージェットによるナノコーティング技術の開発」と題して大学院生の湯本敦史氏による講演も行われ、大きな関心を得ていました。開催期間中には出展ブースに300人を超える産学さまざまな分野の方々からの問い合わせがあり、300部用意した配付資料が全て無くなるほどの大変盛況でした。

隣のブースでは、電気工学科電気応用システム研究室による酸化チタン、光フィルタ、磁気材料、宇宙材料など、さまざまな手法によるさまざまな機能性薄膜についてのパネル展示が行われました。大学院生の研究成果が中心でしたが、専門でない企業の方にも分かりやすく説明するよう心掛けたため多方面からの問い合わせがあり、展示側にとっても企業側のニーズを把握することができ大変良い勉強の場となりました。また、これから社会へ巣立つ大学院生にとっても、良い刺激を受けることができました。



## 夢工祭——中学・高校学園祭

工学院大学附属中学・高等学校の学園祭「夢工祭」が、2002年9月28日(土)・29日(日)に開催されました。

実行委員のお二人に、こんな質問をしてみました。

——今年度より男女共学となり、5カ月が過ぎましたが、最も変化したことは何ですか？

学校全体で1割、高校で約40数人の女子が増えただけですが、その力は大きく、1割なのに5割の力になっています。

夢工祭を見ても、その違いは大きなものがあります。去年は何となく活気がなかったのですが、今年は、女子の頑張る姿を見て男子も動き活気と華やかさが加わりました。

アイデア、発想など、ポスターをはじめ多くのものに、違った雰囲気ができました。入り口の門も、女子のアイデアで風船にしたのですが、準備には毎日遅くまでかかりました。それでも間に合わず、当日の朝早く来てできあがりしました。

(川瀬友太／工学院大学附属高等学校生徒会会長)

——男女共学となり、初めて入学された女子として、本校を選んだ理由、また入学前のイメージと今の感じはどうですか？

大学の付属が一番の理由です。工学院は3回見学に来て決めました。他の学校も見学に行きました。パソコンの設備はどこもあるのですが、教える先生が多い感じがしてここにしました。

入学前のイメージは「クサイ、いい加減な感じ」……今は真面目にやっている。手本となる女子の先輩がいないことが寂しい。でも、男子の先輩が優しく教えてくれました。

(元)男子校に飛び込んで来るような女子なので、みんな活発です。

(浅沼ゆうか／夢工祭実行委員イベント係)



## 大学後援会 「父母懇談会」 のお知らせ

大学在学生の父母の会である後援会では、下記スケジュール表の通り、父母懇談会を計画しております。

開催当日は学長をはじめとする大学の先生方が手分けをして出張し出席されることとなっております。

卒業生各位におかれましても、先生方とお会いできる良い機会と思っておりますので、ご紹介します。

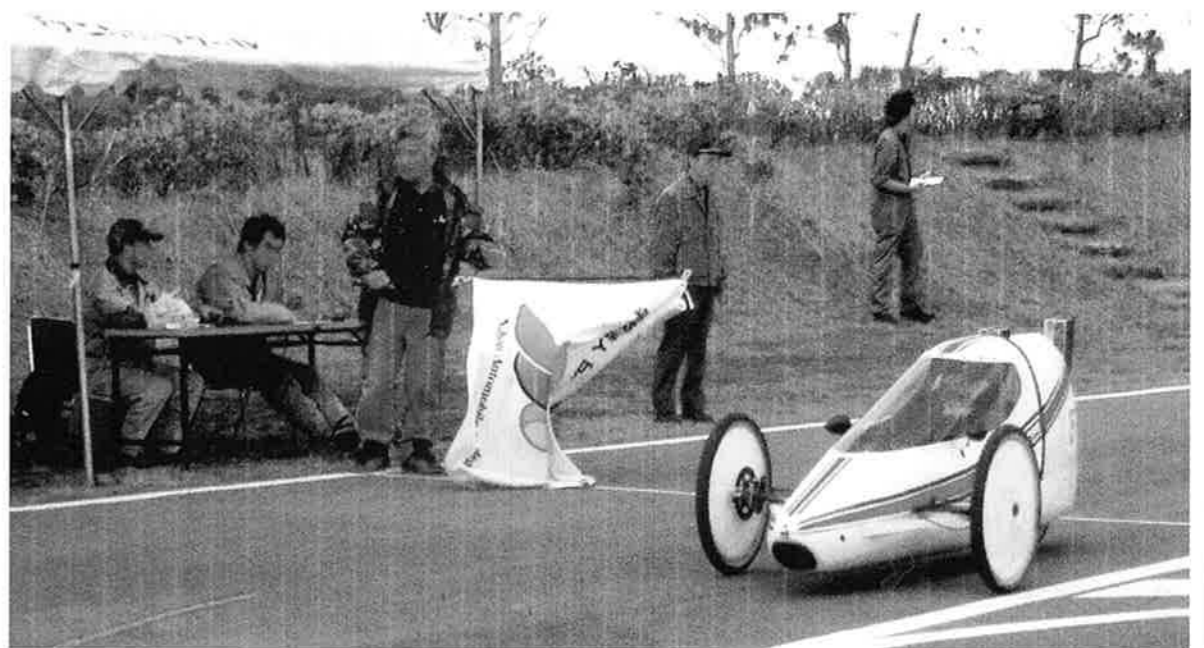
なお、開催時間、出席される先生方の氏名などは次に問い合わせ下さい。

工学院大学後援会事務局  
(大学学生部内)

☎ 03-3348-5255 (直通)

支部名	開催日	開催場所	対象県名
新潟	5月25日(日)	ホテルニューオータニ長岡	新潟
山陽山陰	5月25日(日)	ホテルグランヴィア広島	広島、岡山、島根、鳥取
茨城	6月1日(日)	ホテルマロウド筑波	茨城
栃木	6月1日(日)	ホテルニューイタヤ	栃木
千葉	6月7日(土)	船橋グランドホテル	千葉
北陸	6月7日(土)	都ホテル	富山、石川、福井
東京	6月14日(土)	新宿校舎	東京
北海道	6月21日(土)	札幌ステーションホテル	北海道
神奈川	6月22日(日)	ホテルリッチ横浜	神奈川
東北	6月29日(日)	ビューホテル	福島、山形、宮城
埼玉	6月29日(日)	パレスホテル大宮	埼玉
四国	7月5日(土)	国際ホテル高知	高知、徳島、愛媛、香川
静岡	7月6日(日)	クーボール会館	静岡
北九州	7月5日(土)	八百治博多ホテル	福岡、長崎、佐賀、大分
南九州	7月6日(日)	宮崎観光ホテル	鹿児島、熊本、宮崎、沖縄、山口
近畿	7月12日(土)	東洋ホテル	大阪、兵庫、和歌山、京都、滋賀、奈良
中京	7月13日(日)	ホテルキャッスルプラザ	愛知、岐阜、三重
山梨	7月12日(土)	甲府富士屋ホテル	山梨
群馬	7月13日(日)	前橋東急イン	群馬
奥羽	7月27日(日)	ホテルメトロポリタン盛岡	岩手、青森、秋田
長野	7月27日(日)	ホテル国際21長野	長野

## ロボット競技会 ——専門学校



「第11回全国専門学校ロボット競技会」が、2002年の暮れも押し迫った12月21日(土)・22日(日)、昨年のパシフィコ横浜会場から場所を移して、本校アトリウムで開催されました。

今年のテーマは「超・合戦」。昨年比去年に比べて参加校が若干少なくなりましたが、それでも16校、72チームの参加があり、2日間の熱戦が繰り広げられました。

「科学クラブ」からは今回、有線型ロボット1台と、自立型ロボット2台が出場しました。有線型ロボットはかなりの自信作でしたが、優勝の壁は厚く、予選で敗退してしまいました。自立型ロボットはコンピュータ制御がうまくいかず、最後の最後まで調整に追われ、思うような結果が出し切れませんでした。今回は開会式の学校紹介で、優れたチーム紹介のために贈られる「パフォーマンス賞」をいただいたのが唯一の慰めでした。

学校の授業の合間にロボット作りに精を出し、仲間と一つの目標に向かって進んでいく過程において、講師の先生や先輩からのアドバイスもあり、なんとか大会に間に合うことができました。また、このように大会に出場ができたのも、校友会や同窓会の深いご理解とご協力をいただいたお陰と、この場をお借りして感謝申し上げます。

「科学クラブ」ではロボット競技会のほかに、「理科教室」への参加や、「電気自動車競技会」にも参加いたしました。また、「燃料電池自動車競技会」にも出場を予定しております。

このように年々活動の幅を広げ、学生生活を有意義に過ごしていけるような環境をつくる活動にしていきたいと思っております。

(住野和男／工学院大学専門学校「科学クラブ」顧問)

拡大企画部会

上海・蘇州・無錫・北京視察

写真●谷口宗彦(1971年、大学院建築修了)／大場光博(1971年、大学院建築修了)／鯉坂誠之(2001年、大学院建築修了)  
取材●大場光博

校友会企画部会(笹原克部長:1975年建築卒)では、校友会活動に寄与する立場から、海外視察を検討し実施しました。平成14年8月29日出発、「北京・蘇州・無錫・上海の旅」の4泊5日。今、中国は2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博を目指してひたすら走っているような熱気があります。参加者は、機械工学同窓会から6人、建築同窓会から4人の計10人です。

1. 上海近郊は1億3,000万人

上海虹橋国際空港に到着後、市内中心部に近づくとも高速道路の車窓から、巨大な中高層ビルが乱立して見えます。夕暮れのしじまが幕を降ろす頃、黄浦江に面した外灘の畔に到着。19世紀列強の共同租界地だった頃に作ったクラシックな欧風の建築群が並び、ライトアップされて綺麗。

川向こうにはアジア最大のテレビ塔「東方明珠塔」が輝きを増す。ここ浦東新区は、上海で一番ホットなエリア、高層ビルの外資系ホテルも多い。上海の人口は約1,600万人で上海近郊を含めると1億3,000万人、これは日本の人口と同じくらい。市内には日本人が10万

人、驚くことに台湾からも50万人がすでに住んでいて、戦争はもう遠い昔のような感じがします。面積は5,800km<sup>2</sup>。最近では上海が狭くなり、トヨタ、サントリー、味の素、ハウスカレーなど日本企業が蘇州に移転。一方、北京の傍の天津特別区には日本企業が1,000社近くも進出しているようで、今や大変な数になっています。

3,000年前から北京と上海の南にある杭州まで、約3,250kmに運河が掘られ、昔は水運で荷物を運んだ。運河終点に近い蘇州は上海から80km離れていて交通のクロスロード、商業の大集散地。人口約100万人。今でも蘇州にはあちこちに運河が残っている。運河の小船を下船すると目の前にシルク工場がある。そのサロンでは毎日数十回ファッションショーが行われている。軽快なBGMとともに美女6人によるショーが始まる。みんなスタイルがいい。シルクを販売する店内は小さな体育館のように広い。シルクのアンダーウェア、シャツやネクタイなど、どれもスベスベしていて、肌触りが優しい。販売の仕方もとっても上手。

さて、拙政園に続いてのコース

は、寒山寺の中に五重塔が現れる。2001年建設されたというが、すでに何百年も前から建っているような感じがする。信じられないような出来ばえだ。中国は今、観光に力を入れていて受け入れ体制も着々と整い、日本語ガイドも高学歴で優秀だ。観光資源は豊富、食材も人件費も安い。観光地がテーマパークのように工夫されている。外貨を稼ぐにはこれ以上の得策はない。無錫の太湖を帆を揚げて遊覧し、8月30日夜、上海から北京へ空路移動する。上海の新しい浦東国際空港には、世界初のドイツ製リニアモーターカーが2003年1月に開通。最高時速430km、上海中心部までの30kmを7分で結んでいる。

2. いにしへの都、北京

9月1日早朝出発。北京は「城壁でぐるっと囲まれていましたが、文化大革命時代に撤去されました」、今は環状道路になっています。「壊さないで残しておけば良かった」とガイドが説明(1950年で城壁は撤去と、後日確認)。面積17,000km<sup>2</sup>。バスの中で注意される。売り子から買うものは「100%偽物。おつりに偽札が混じっていても、ガイ



■上海高速道路——中高層ビルが乱立



■蘇州運河——北京まで続いている



■寒山寺——屋根のそりが中国的



ドは一切責任を取りません」とはつきり。

これが今の首都北京の現実なんだ。マンション買っても「70年経ったら国のもの」。土地は国のものなので、「親が買っても子どもの代で終わりになる」。「何もいえない」です。「上海、北京は中国の中の点」ではない。他の地域は「みんなとつても貧しい」。今まで皆さんが「見てきた所は進んでいる地域」ですと、しっかり指摘します。

天安門広場は50万人が一度に集まれる広さ。毛沢東の遺体が安置されている毛沢東紀念堂の周りを、午前中から長蛇の列が取り巻いている。一体どのくらいの人々が並んでいるのだろうか。天安門広場に鳶の風が一つ二つ、ヒュルヒュルと空高く揚がっている。何処から揚がっているのだろう。町は道路一杯に自転車とバイク、車が走る。

行けども行けども、同じような建物が続く、さすがに故宮は広い。床が一面整備されていて、ずいぶん修復に力を入れている。皇帝の書庫らしきものが復元されている。ラストエンペラー溥儀の弟の子、つまり皇帝の甥が今日は来ているという。部屋の奥の大きな机の前

に黒色の中国服に身を包み座っている。穏やかな顔つき、眼鏡姿の70代前後のお年寄り。中国書道会副会長、愛新覺羅南柯さん。豪華な文具三珍に囲まれ半紙にスラスラと筆を走らせる。「心清事達」の四文字、左下に署名落款、涼しい顔で我々を眺める。「心清く邪心がなければ、人生は成就する」の意味という。

北京市内から車で約1時間、八達峰の万里の長城。泥レンガで造られた城壁の高さは約6~9m、上部の幅4.5m。尾根伝いに地形をなぞっているので突然とても急なスロープになったり階段が現れ、水平部分が少ないので手すりがないと登りにくい所もある。全長は西の嘉峪関から東の山海関までの6,700kmともいわれる。山々の緑が鮮やかな真夏、遠くの長城の上を米粒のような人々が鈴なりに歩いている。

天壇公園は、1420年に天に五穀豊穡を祈るために造られた石造りの祭壇が園内にある。長い回廊を歩いていると通路の横木に腰掛けて3~4人が胡弓を演奏している。ゆったりと時が流れ長い歴史を感じる。背の高い男が鳶の風を売っ

ている。組み立てると翼長が1mになる。

3. 21世紀に生き残るのは

中国視察に行ってから、新聞記事が気になりました。帰国した頃は、次の記事が代表的な意見だと思えます。「日産、中国で乗用車生産へ」(朝日新聞/平成14年9月12日)。

「中国戦略を加速するために、日産は中国の大手自動車メーカー東風汽車との合弁事業に、今後3年間で1,000億円程度の投資を行う見通し。年間10万台ペース、車種はセフィーロ、サニー、マーチが有力、中国側は需要が急速に高まっている高級セダンの生産も求めている」。

製造業に関してみると、中国を征することのできないあらゆる企業は、これからの「21世紀に生き残るのは困難になる」だろう、と私は今回の視察で強く感じました。楽しい旅でした。

さて、平成15年も海外視察が検討されていると思えます。あなたも是非この企画に参加してみませんか。企画していただいた校友会および拡大企画部会の関係者の皆様、厚くお礼申し上げます。



■故宮——御殿が幾重に、とにかく大きい



■万里の長城——どこまでも長城は続く



■天壇——回廊では胡弓演奏



# 支部だより

## 北海道支部

西村 武 北海道支部・支部長

毎年9月に支部総会を開催しております。平成14年度は、三川屋会館にて、組織部理事の初田建築学科教授をお迎えして、32人出席の総会となりました。364人に総会のご案内をしましたが、毎回この辺で落ち着いております。

なにぶん広く「お～い、お～い、北海道」ですからいたし方がないと思っておりますが、50人の参加を目標に頑張っております。

行事としては、役員幹事会、総会、淀橋会ゴルフコンペが3大行事でありまして、そんななか9人参加の大変に冷え切ったゴルフコンペは一抹の寂しさを感じております……が、交流を深め、活動の輪が確実に広がるよう務めてまいりたいと考えております。



## 宮城県支部

加藤 勇 宮城県支部・支部長

秋の一日を、会員有志でゴルフコンペを開催。ご多分にもれず宮城県支部も、毎年、総会出席率向上が悩

みの種。そこで、なんとか少人数からでも始めようと、募ったのがゴルフコンペ。シーズンたけなわということもあって、2組が成立。さすが同窓の気心の知れたメンバー、プレー中も楽しい会話が弾んで、会社のコンペとは違った和やかな一日となりました。

この写真のキャディさんをご覧ください。仲間が増えることを期待しておりますが、今度は隣県の支部にもアプローチして、校友の輪を広げていきたいと思っております。



## 山形県支部

渋谷 成一 山形県支部・事務局

平成14年度の支部総会は、平成14年7月27日(土)、山形市ホテルキャッスルにおいて、平吹和之支部長以下、会員12人の出席で開催されました。本部から、前年度に続いて松為迪夫組織部長においでいただき、学



園ならびに校友会の近況について詳しくお話をいただきました。

平成15度の支部総会はまだ未定ですが、6月28日(土)あたりを予定しています。

## 福島県支部

高村 勘 福島県支部・支部長

工学院大学校友会(大学・高校・専門学校・専修学校)福島県支部総会が、平成14年11月9日(土)・10日(日)の1泊2日で、三春町の若松屋旅館において開催され、県内の福島・いわき・郡山地区より12人の会員が集まり、盛大に行われました。

平成14年度は、福島県支部結成45周年(常磐支部通算)にあたり、それを記念した総会でもありました。

総会は、会員同士の交流と情報交換のため、毎年、県北・会津・いわき・相双地区を持ち回りで開いております。

第1日目は、昭和35年工学院大学電気工学科卒業で、現在、足利工業大学教授の江袋林蔵先生によるコンピュータの音声認識について記念講演が行われました。その後、総会が開催され、支部長・副支部長・会計が再任され、会計監査は昭和43年大学機械工学科卒業の簡野紀夫氏が選出されました。

また、校友会本部から来賓として組織部担当理事が出席され、本校の現状について説明がなされました。総会終了後は懇親会を開き親睦を深め、会の発展を誓いあいました。

第2日目は、希望者で町内の三春こけしを製造しているデコ屋敷の見学。そして、来年度の県北地区での再会を祈り、現地で解散となりました。



## 栃木県支部

柿木 ひであき 福島県支部・支部長

恒例となった支部総会は、5月の第3日曜日ということで5月19日に、宇都宮市内のホテル・ニューイタヤにおいて開催されました。

本部より組織部長の松為迪夫氏を迎え、会員は20人が参加されました。

松為部長より学園および校友会の現況などの説明を拝聴し、総会においては支部の活動報告、決算報告などの議案も滞りなく了承され、無事終了しました。

第2部の講演会に移り、今回は昭和36年大学建築学科卒業の中隣博



氏により「私の見た世界」と題し、仕事の合間にヨーロッパを主にアメリカ、カナダ、東南アジアを旅した経験に基づき、各国の状況について興味深い講話がありました。

特に、町から次の町に移動する場合にレンタカーを利用し、途中のツアーでは見られない所の景色、情景をつぶさに観察し、その風景をスケッチされ その時における印象を書き留めて記録され、その数、約200点ということでした。

終了後、その貴重な絵を出席者全員に一枚ずつプレゼントされ、ありがたくいただいて参りました。

画題もさることながら、その繊細なる画風は一見に如かず、校友会本部にも数枚寄贈され事務局に展示されておりますので、ご高覧いただければと思っております。

第3部の懇親会も、和気藹々の内に無事終了いたしました。

なお、中隣氏はその後、身体障害者施設の仕事に携わることになり「身体障害者を理解していただけるように」という趣旨で、平成14年11月1日より10日まで、とちぎ女性センター内栃木パーティにおいて展覧会を開催し、64点の絵画を出品され、多くの参観者に恵まれて、盛会裡に終了されたとのことでした。

平成15年度の支部総会は5月18日に行う予定です。



■中隣さんのスケッチの1枚

## 埼玉県中央支部

黒澤 兵夫 埼玉県中央支部・支部長



埼玉県中央支部の平成14年度の主要な活動報告、および平成15年度の活動予定について述べます。

### 1 平成14年度活動報告

(1)埼玉県中央支部総会と講演会の開催

日時：平成14年6月2日(日)

会場：ジャック大宮

出席者：40人

[講演] 我が埼玉の経済動向——明るさの見える地域経済?

講師 ● 樋爪龍太郎氏(武銀地域経済研究所取締役社長/前武蔵銀行副頭取)

(2)歴史探訪とゴルフコンペの1泊2日旅行

日時：平成14年3月16日～17日

会場：ジェイセレモCC

出席者：15人

### 2 平成15年度活動予定

(1)埼玉県中央支部総会と講演会の開催

日時：平成15年6月1日(日)

会場：ジャック大宮

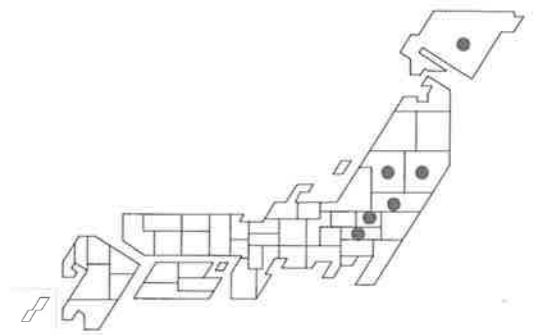
[講演] 埼玉の産業動向について(仮称)

講師 ● 紺野寛氏(日刊工業新聞社さいたま総局長)

(2)歴史探訪とゴルフコンペの1泊2日旅行

日時：平成15年3月15日～16日

会場：ジェイセレモCC



支部だより

### 西東京支部

青木俊之 西東京支部・支部長

平成14年6月9日(日)、定期総会を八王子クリエイトホールにて開催しました。

来賓として、高木雅行校友会副会長、杉山組織部担当理事、落合中野支部長、会田横浜支部長、黒澤さいたま中央支部長、三宅東京支部副支部長、安宅千葉支部長、太田川崎支部長、佐藤千葉支部前支部長の出席をいただきました。

総会后、池田和夫支部顧問より「ノーベル賞百年の歴史について」の講演がありました。

総会の後、場所を改めて懇親会を行い、親睦を深めました。

総会の議事のなかで、今年度の事業計画が提案され、承認されまして順次実行されました。

8月5日●西東京支部だより第8号を発行。

8月24日・25日●大学八王子キャンパスにての「わくわくサイエンス祭り」に参加。

9月8日●サントリービール武蔵野工場見学。

9月22日●大学1部吹奏楽部・第23回定期演奏会に出席(八王子市民会館)。支部よりフラワースタンドを贈呈。

10月25日●都市基盤整備公団総合研究所技術センター(八王子工業団地内)見学。

平成15年1月18日●支部恒例の酒造見学を実施。

3月1日●日野自動車21世紀セン

ター見学。

以上、当支部としては今後ともこれらの活動を通して、なお一層の結束と、併せて近隣支社との交流をより深めるべく、今後とも努力をしていく所存です。



### 湘南支部

笠原又一 湘南支部・支部長



湘南支部の主な行事(新年会、親睦ゴルフ会などは随時実施)。

1支部総会●平成14年度神奈川五支部総会および懇親会を、7月6日に江ノ島岩本楼にて校友会本部ご来賓を含めまして71人の参加をいただき盛大に催すことができ、主催支部としまして大変感謝している次第です。

その内容は、工学院大学校友会ホームページの支部便りに報告してございますので、どうぞアクセスして下さい。

2他較との懇親●藤沢には14大学湘南藤沢地区親睦・交流会というも

のがありまして昨年よりこれに当湘南支部も加盟し、工学院大学の名前を大いに売り込んでおります。

3実務に役立つシリーズ・勉強会●12月14日に勉強会を実施しました。今年度は特別に太田川崎支部長殿をはじめ18人の参加で、当支部相談役で元校友会会長の丹羽国際特許事務所丹羽所長に熱意のこもった特許のお話と討論をしていただきました。

その目的は、これからの日本には知的財産がさらに重要となるので、当支部においても会員同士が知恵を出し合いお互いに協力し特許を取って活用すれば会社でも個人でも利益があげられ不況も乗り切れる。支部にて取得したものは支部費用に活用し本部の負担も減らすことができるだろうという遠大な計画にもとづいております。



勉強会風景(中央が丹羽講師)

4ホームページ開設●倉賀野西湘支部長の支援で、今年度12月より神奈川五支部のホームページが開設できました。上記勉強会の状況も湘南支部だよりとして報告されておりますのでどうぞご覧ください。また、この目的はこれからの若い会員の方の参画を期待し、支部費用の中心となっている通信費用を削減すること、支部会員との連絡を密にすることなどであります。

5平成15年度予定(詳細は来年2月15日の役員会で立案しホームページでも掲載します)●1月18~19日:神奈川五支部幹事会(西湘支部主催)/2月15日:役員会(平成14年度活動報告ならびに平成15年度活動計画立案)/4月下旬:役員会(会計報告)その他、支部総会事前打ち合わせ/5月17~18日:湘南支部総会(神奈川五支部各支部総会および懇親会・西湘支部主催)/5月下旬:同好会(親睦ゴルフ会)/7月11~12日:校友会全国大会参加/8月下旬:同好会(つり、ハイキングなど)/9月下旬:親睦行事会(湘南藤沢地区14大学懇親会)/10月中旬:役員会(ボランティア活動)/11月中旬:同好会(親睦ゴルフ会)/12月中旬:勉強会、忘年会付き(実務に役立つシリーズ)

\*2002年度よりの特許活用推進会議は継続して随時実施。

### 西湘支部

倉賀野孝行 西湘支部・支部長

西湘支部は神奈川県下の5つの支部の一つです。県名が付いていないので何県の支部?と思われる方もおられることでしょう。神奈川県西方が地盤で支部員は総勢約900人です。自然に恵まれているので、支部活動の中には、アウトドアなども織り込んでいます。

ここでは、最近一年間の支部活動を紹介します。まず、年間の活動計画を、支部長と、各地区を担当する副支部長で年度初めに決め、各行事

毎に担当幹事を決めてしまいます。こうすることによって、幹事は事前に予備調査ができ、本番の時にスムーズに実施することができます。4月●箱根ウォーキングと日帰り温泉。小田原から電車を乗り継いで強羅まで行き、そこから約3時間のウォーキング。下山してから湯本の温泉で汗を流し、昼食。

7月●神奈川県下5支部合同の懇親会と各支部の総会。今年度は湘南支部が幹事で、江ノ島で行いました。

8月●屋形船夕涼み懇親会。西湘支部初の行事として屋形船に乗りました。盛夏の夕暮れ時に、相模川の河口で大型の屋形船を借り切つての懇親会で楽しいひと時を過ごしました。最小催行人員20人ということで、支部員の家族、友人に参加していただき盛会でした。



9月●イナダ釣り。西湘支部恒例の相模湾でのイナダ釣りで、外道では、メジマグロ、アジ、サバなどです。今年はイナダが一人平均3本上がりました。

11月●忘年会&パークゴルフ。パークゴルフはゴルフを全く知らない人でも、気軽にでき楽しめました。忘年会会場は、時節柄もあり公営の施設を利用し経済的に行いました。

平成15年3月●県内の酒蔵またはビール工場の見学を予定しています。

これらの行事を通じて感じること

は、若い世代の支部員の参加が少ないことです。働き盛りの若い現役サラリーマンに魅力ある支部活動は何か、に頭を痛めているところです。支部活動に参加できない人にも、情報を発信しどのような活動しているのか知ってもらうために、平成14年12月にホームページを開設しました。これによって、少しでも興味を持っていただき、さらには行事への参加を願っています。

### 福井県支部

吉川博邦 福井県支部

福井県支部総会が、平成14年12月1日、福井県武生市の武生商工会館で開催されました。大橋学長(現理事長)が来られるということで、この日に急遽、開催されました。

支部総会も長い間、開催されることがなく、大学校友会本部に連絡し名簿の打ち出しをお願いいたしました。たった三週間で開催したこともあって、集まったのは僅か9人でした。

大橋学長には、PowerPointで大学の近況報告をいただきました。懐かしい八王子キャンパスや旧新宿校舎がどのように変革しているかをご紹介いただき、工学院大学が目指しているものを再認識させられました。

この後、昼食を取りながら懇親会となりまして、少ない人数のお陰で和気藹々<sup>わきあたたかい</sup>と和やかに名刺交換を始め、顔と名前がすぐに一致しまし

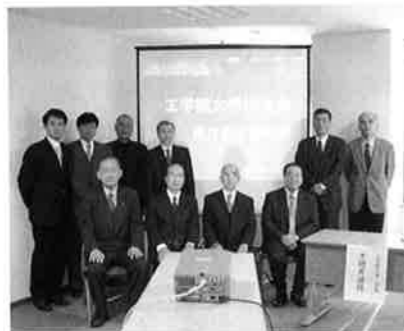
支部だより

た。それまで校友会に入っていなかった私も急遽、3週間前にメールで入会しまして、学長のPowerPointでの講演アシストをさせていただくようになりました。

総会の後に開催された「渡邊洪基先生没後百年記念」事業で「渡邊洪基先生がめざしたもの——工業技術者育成の過去・現在」として、工学院大学大橋秀雄学長(現理事長)の基調講演がありました。大橋学長は、講演の時になされると、生き生きとした表情で話をされておられました。

恥ずかしながら、武生に住んでいるながら「渡邊洪基先生」のことは全く知らずに工学院大学を受験し、30年が過ぎてしまいました。当時の日本人としては、極めて珍しく国際性を持っていたことや、近代国家形成には人材育成が是非とも必要であることを説いていました。また、こういったグローバル性の反面、郷土・武生を深く愛していました。

渡邊洪基書簡「武生地方有志諸君に告ぐ」を励みとして尽くしたいと思います。



■□■

プロジェクト武生21——  
渡邊洪基没後百年記念事業

1事業の名称:プロジェクト武生21  
渡邊洪基没後百年記念事業

2趣旨:幕末から明治維新において、日本の近代化の実現を夢見て、世界に雄飛し、明治国家の基礎づくりに奔走し、国制ならびに国家財政・経済のシステムづくり、産業の振興など、近代国家のプランナーとして活躍した、郷土の先覚「渡邊洪基」に光をあてながら、彼の没後百年を記念し、市民の方々とともに彼の偉大な業績を検証しつつ、次代の子どもたちへのメッセージに資する。

さらに、彼が演出した近代日本の中央集権社会から百年後の今日、分権という変革のうねりのなかで、社会システムが大きく変貌してきた。今こそ、私たちは、彼の先見性とグローバルでダイナミックな視野で郷土を見つめ、次代を担う幾多有為の人材の育成と、知的産業など新分野の産業の振興を喚起する啓発的的事业もする。

[渡邊洪基先生略歴]

渡邊先生は、現在の武生市京町2丁目・善光寺通りで、1847年(弘化4年)に府中藩医渡邊静庵の長男に生まれ、1901年(明治34年)に東京で没した(法名「正定院釈旦堂不退居士」)。

年少、箕作麟祥や福沢諭吉の塾に入って英学をおさめ、1871年(明治4年)、岩倉遣欧使節団に随行。1873年にはイタリア・オーストリア公使館書記官として夫人とともにウィーンに赴任(1874年に公使、1876年に帰国)。1879年(明治12年)、学習院所長。翌年、司法省大書記。1885年(明治18年)、

東京府知事。翌年、帝国(東京)大学初代総長。

1888年(明治21年)、**工手学校(現在の工学院大学の前身)を創立**。1890年に再び特命全権オーストリア公使としてウィーンに赴任(1892年に帰国)。その後、衆議員議員、勅撰貴族院議員を歴任し、1900年(明治33年)に伊藤博文の立憲政友会創立委員として参加した。

3主催:プロジェクト武生21 渡邊洪基没後百年記念事業実行委員会・財団法人武生郷友会

4後援:武生市、武生市教育委員会、武生商工会議所、武生立葵会

5期間:2002年11月24日(日)~12月7日(土)

6役員:実行委員長●三田村俊文(武生商工会議所会頭・武生郷友会役員) 副委員長●石川満夫

(武生郷友会武生支部長) 総合コーディネーター●小田貞夫(十文字学園女子大学教授・武生郷友会役員・元NHK解説員)

監修●宮脇豊三(武生郷友会役員・武生立葵会員) / 齋藤嘉造(武生立葵会会長) / 栗波敏郎(市教育委員会・図書館長) 事務局長●奥田忠嗣(武生郷友会役員) 事務局員●杉本次太(武生郷友会・武生立葵会員) / 井上和治(サイエンスクラフト社長・武生立葵会員) / 齊藤隆(武生郷友会・武生立葵会役員)

7事業の展開: 渡邊洪基展: 期間●2002年11月24日(日)~12月7日(土) / ゆかりの遺墨・書簡・写真・学術資料(現物および複写物による)

開幕セレモニー: 2002年11月24日(日) / 武生市公会堂記念館・1階ロ

ビー、展示室2 午前10時:ロビー/開幕挨拶など 10時30分:記念講演「蒼空を駆ける男——偉人・渡邊洪基先生を想う」 / 展示室2 / 講師●文殊谷康之(作家・日本文芸家協会・武生郷友会役員) 基調講演・パネルディスカッション 2002年12月1日(日) / 武生商工会館パレットホール

午後1時:主催者挨拶など 1時20分:基調講演「渡邊洪基先生を目指したもの——工業技術者育成の過去・現在」 / 講師●大橋秀雄氏(工学院大学学長(現理事長)・東京大学名誉教授・工学博士)

2時30分:パネルディスカッション テーマ●今求められる人材育成——渡邊先生没後100年 コーディネーター●小田貞夫(十文字学園女子大学教授)

パネラー●大橋秀雄氏(工学院大学学長) / 石川満夫(武生郷友会武生支部長) / 井上和治(サイエンスクラフト社長) / 齊藤隆(武生立葵会幹事)



大分県支部

榎崎政男 大分県支部・支部長

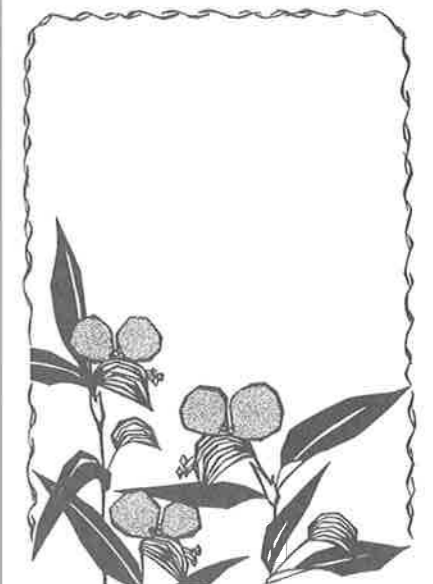
大分県支部総会が、平成14年11月23日(土)、別府市のつるみ荘にて

開催されました。 校友会本部より組織部理事の山本清氏を迎え、会員は17人が参加しました。

席上、役員改選が行われ、朝倉庄司(大分地区)が退任、渡辺光治(大分地区)、本田信之(別府地区)の2人が副支部長として新任しました。

新役員増により、支部の総会出席率向上と活性化、若年層の参加を目指します。14年度の総会出席者は19人の予定が都合により17人になったが、初めての参加者が6人で、盛大で有意義だったと喜ばれ、さらに若い卒業者に呼びかけていくよう努めることにした。

平成15年度支部総会は、平成15年11月15日(土)、18時~、別府市のつるみ荘にて開催いたします。若年層の数多い参加を期待しています。



校友の皆さん、お元気ですか！

# 私も頑張っています

## 校友とともに風車を創造しよう

昭和38年建築学科卒業  
武智昭雄（連設計代表取締役）

本校の建築学科を昭和38年に卒業して約40年になりますが、卒業以来、私は建築的にものごとを考え、建築的に生活することを心掛けてきました。建築的な思考法の中で特に重要なのは「デザイン」することです。その「デザイン」という言葉は今ほどよく聞くことはないでしょう。

古い話ですが、1929年の世界大恐慌をデザインの力で救ったのは、あのタバコのピースの外箱をデザインしたレイモンド・ローウィ氏でした。

1992年、英国経済がどん底の年、デザイン・ビジネスの名手、テレンス・コンラン卿はロンドンに巨大なレストランを開き、ロンドン子をおとすと言わせ、さあ立ち上がろうとメッセージを発したそうです。「現実にはそれは再生のシンボルとなり、発展の踏み石効果を果たしました」と、本人が言っています。その後、世界中にデザイン・ビジネスを展開しています。

最近わが国に関連するものは、「六本木ヒルズ」の住宅棟のデザインを担当し、新装丸ビルに「コンラン・ショップ」を出店し、ユニクロ英国店、無印良品英国店に関係している。コンラン氏の信念「プレーンに、シンプルに、そして実用的」。

日産のカルロス・ゴーン社長は日産の経済立て直しに大型リストラを断行しましたが、デザイン部門には



■写真-1

手を付けなかったとのこと、デザインで会社を盛り返すとメッセージしている。……などなど、この不況で混迷の世の中であって「デザイン」こそ、重要なテーマであり、不況を乗りきるキーワードではないかと思えます。

さて、私どもコンラン氏には叶うべくもありませんが、今話題の自然エネルギーの一つ、風車について「デザイン」を進めています。

風車といえば、一般にプロペラ型をイメージしますが、私どもが進めているのは特殊な風車で、サボニューウズ型と言い、堅型とか抵抗型とも言います【写真-1】。

プロペラ型と異なるのは、デザインが自由でいろいろな形が生まれる可能性があります。その利点は、世の中に設置台数が増えると景観に適應させる必要が生じてきますが、きっと対応するでしょう。また海外ではプロペラが全盛ですが、日本では台風が多く、安定した風が得られにくいという条件下では、プロペラよりも堅型が合うのです。まさに「日本型風車」と言ってい良いでしょう。

すでに20年前になりますが、展望

台のモニュメントとして、秩父の長尾根公園に大きな風車をデザインしました。今も回り続け、発電し、夜間には自らをライトアップしています【写真-2】。

このように、風車の羽根そのものをデザインして風車業界の発展に寄与したいと言いますか、美酒に酔いたいと言いますか、うまい酒を飲みたいと念じているところです。

私は校友会・東京支部の仕事に携わっていますが、その「ノミニュケーション」の席で、大学に風車の技術があることを知りました。大学の技術とアカデミック性、そして私どもの「デザイン」を合体させる、つまり産学連携事業にしようとしてスタートしたところです。校友の間で事業が進められることに大きな意義を感じています。

東京支部長・千代田節雄氏、電気工学科・横山修一教授をはじめ多くの校友には大変お世話になっていますが、今後ともよろしく願い申し上げます。この誌面をお借りしまして、ここに厚く御礼申し上げます。



■写真-2

## 理系から文系を考える

昭和33年工業化学科卒業  
西原孝行（中小企業診断士）

### ●●はじめに

理系の大学ということもあって、「最新の科学・技術について」といった技術的な話題が多いのですが、たまには少し違った「理系と文系のはざま」という視点から、大学への思いや、これからの世代を担う学生や若い方々にお話しできれば幸いと思っています。

### ●●理系単科大学の悩み

#### ■1 大学のさまざまなころみ

工学院大学も、産業界をはじめ、広く社会に貢献して、国際基礎工学科ができるなど、ベンチャー度、革新性がある意欲的な大学として、しばしばビジネス誌、新聞、TVで取りあげられています。こうした取り組みに深く敬意を払います。

しかし、一般には、文系もある総合大学、かつて偏差値ブームで伸びた大学、スポーツを戦略にした大学などと比べて、まだ不満だという声も聞きます。多くの人がそのよりどころに悩んでいるのかも知れません。その一つは理系単科大学の宿命であり、弱みだと思えます。

「理系から文系」をどう考えるかについては、学生の意識は別にして、東京工大の評価が高く、理系のなかで独自の位置を持ち続けているのは、大いに参考になるのではないのでしょうか。

### ●●科学・技術の発達と理系と文系

#### ■1 科学・技術の影響が広がっています

理系と文系を考えるきっかけは進

学や就職で、理系で生きるか文系かの選択から始まります。日常生活では「物」と「心」の二つに関わり、政治、経済、科学、宗教そして人々の心の中にいたるまで、理系と文系に関わるものが、あらゆる営みに広がりを見せ始めています。

#### ■2 「人類は止まらない汽車に乗った」という問題

経済や科学・技術をもとにした現代文明を、哲学者の梅原猛さんは、「人類は止まらない汽車に乗った」と喩えました。約300年前に発明した汽車に乗ることからはじまり、止まることも降りることもできない近代科学文明に警鐘を鳴らしています。

#### ●●スノーの有名な「二つの文化と科学革命」

理系と文系の二つの文化論では、C. P.スノーの有名な『二つの文化と科学革命』（みすず書房）がよく引用されます。文化を「文学を極にした文系の領域」と「物理学を極にした科学」の二つの文化に分けて論じています。

二つの文化はお互いに話し合おうとしない。科学・技術者は楽天主義で、いつも未来を見て夢を追いかけている。実生活に活用したり、戦争に利用したり、環境を汚染するといったことは「技術」であって、真理を追求する「純粋科学」とは違うという主張があることを指摘しています。

また、現在の経済社会では、産業を盛んにすることが豊かになるただ一つの方法だとされており、スノーは、これが貧しい国の人々の希望になっていると批判も込めて述べています。

#### ●●細分化・専門化と二つの文化の影響

科学・技術は、ますます細分化・専

門化へと進んでいます。それぞれが独立した学会や領域をつくって、専門家以外の人は発言できませんし、その分野を理解することが難しくなっています。

一方で、「二つの文化が折り合わない」とスノーが指摘した時代に比べて、理系と文系の二つが関わる領域が広がっています。

技術・人間性・芸術性をもった建築や、人の心にも関わる医学は別にして、最近では、映像、ゲーム、ロボットなど「想像」や「いやし」といった、広がりのある領域が出てきました。

多様な商品やシステムの開発には、文系の世界が必要で、政治、経済、語学、文学や芸術に至るまで、さまざまな人々に関わります。そこに、全体をまとめる原理があり、マネジメント、戦略、システム化する領域が必要です。あらゆる文化の現象さえも、生物・脳神経学で説明できるという主張も出てきました。

#### ●●科学・技術と人間の幸福の課題

#### ■1 科学・技術の永遠の課題です

科学・技術は「人間を幸せにしたか」という基本的な問題がしばしば提起されます。知識と便利な生活があることを見せつけ、病気という不幸には役立ってきましたが、大量殺人、環境悪化、ストレスなど新たな悩みをもたらしました。科学・技術者は、常にこの多面性の認識が必要です。

純粋科学は「真実を追求すること、どう使うかは別問題である」として、科学と技術を区別しようとしています。これは責任逃れにつながりかねない、醜い実りのない議論といえます。

## 校友の皆さん、お元気ですか！／私も頑張っています

### 2 評価がわかる天才的数学者フォンノイマン

ハンガリーの天才的数学者フォン・ノイマンは原水爆の開発に熱心で、そのなかから現在のノイマン型コンピュータの基本をつくりました。さらに、人をデジタル化した(人間の思考まで数式でとらえる)など、倫理の面で厳しい批判を受ける一方で、現在の情報技術のもとをつくったとして、それなりの評価を受けています。ノイマンは科学・技術の二面性を示す象徴としてしばしば取り上げられます。

### 3 有名な二つの警鐘

かつて、驚異的な効果を発揮したDDTの殺虫効果を発見したパウル・ミラーはノーベル賞を受けました。ところが、塩素系物質に毒性があることが分かると、一転して使用中止になりました。

こうした化学物質の環境汚染や動物、人への影響について警鐘するきっかけをつくったのが、レイチェル・カーソンの有名な『沈黙の春』であり、環境ホルモンなどさまざまな化学物質が生殖などに及ぼす影響を指摘したのが、シーア・コルポール等共著の『奪われし未来』です。未来への警鐘として無視できません。

### ●●理系と文系のすきまをうめる発信

理系と文系の問題も含めて、村上陽一郎教授、佐々木力教授、評論家の柳田邦男さんや立花隆さんなど、脳死や遺伝子、知や教養、科学倫理といった、幅広い発信に注目しましょう。東大からおいでになった本学の畑村洋太郎教授の「失敗学」も一つの発信です。

科学・技術は人々の理解を超えて、どう働いているのか、後ろに隠れて

見えなくなっています。人々は、信じるしかなく、一抹の不安をもっています。いろいろな不祥事があっても技術者はほとんど姿を見せません。科学・技術は素直に限界を認めながら、もっと多くの人に優しく説明して、信頼を得る努力と情報を発信する必要があります。

話は変わりますが、クレイジーキャッツを結成して、当時、技術の進歩を象徴したテレビを利用して、お笑いで社会現象をつくった、故ハナ肇さんという先輩がいました。今年はTV放送50年、工学院大学新聞も2年後に50年を迎えます。当時の仲間は今も交流が続き、多くは産業界、経営に携わり、マスコミ、政治などに違った分野に進んだ人もいます。技術者として、論文、雑誌、出版などマスコミにも登場しました。

### ●●企業で文系とどうかかわるか

#### 1 企業をどう理解すればいいか

理系の人も、研究の分野だけを歩む人もいますが、やがて管理職や経営に携わるのが一般的なコースです。経営、経理、労務、法律など実務に役立つのが「実学」で、さまざまな情報に関心をもち、意思を伝え、顧客のニーズを理解して、マネジメントしなければなりません。

厚生労働省の調査で、企業が求める能力は、第1位が「企画・発想力」、ついで「コスト意識・財務センス」、「販売・営業力」と続きます。

実社会では、生活のなかで経済や経営を学びます。経済・経営学は、実社会での学習だといえます。理系の方も、経営について興味だけは持つようお勧めします。経営を勉強すると、突然、新しいモノの見方が開け

るでしょう。本学で、エンジニアリングとマネジメントをあわせたMOT(Management of Technology)の大学院が検討されているとのこと、期待しています。

#### 2 企業文化にも注目

厚生労働省の調べで、入社して3年未満で、約3割の人が退職しています。自分がイメージする仕事でなかったり、人間関係など、多くの人々が何度も悩みます。そんな時どう対処するか決断しなければなりません。企業文化も判断の一つです。

人を大切にできる企業、斬新な企業、一流大学を出た人を優遇する企業、ドライな企業、成果主義のもとに厳しい企業、ワンマン経営などなど、ブランドもその一つです。インターンシップで、社員の様子や言動から、こうした「企業文化」も感じとって下さい。

#### ●●適切な判断と決断ができるために

クレーム、災害、環境、社会的責任など、大小さまざまな現実に出合い、不祥事や事件も報道されています。企業や社会、そしてあなた自身にとって、大きな打撃になるようなことは、避ける努力をしなければなりません。こうしたさまざまな場面に直面しても、適切な判断や決断ができるよう、広い教養、知識、常識、知性を磨くことが大切です。畑村教授の「失敗学」は、これらを次のプラスに結びつけることだといえます。

#### ●●得意分野をしっかりとって教養・知性を広げる

#### 1 大学時代の意義は「自分で学ぶ」方法を知ること

知性とは、「ものの見方を知っているかどうか」ということです。哲

学者の梅原猛さんは、理性には「叡知的理性」と「技術的理性」があると、近代技術文明は「技術的理性」に偏っていると指摘しています。

理系の学生は実験・実習・専門知識、それに就職活動と非常に多忙です。文系の人で、「ほとんど授業に出なかった」というのをよく耳にします。それでも大学に在籍したことのある人は、不思議とそれなりの判断力と教養を備えています。大学時代は、「自分でどう学ぶかの方法を知ること」に意義があるわけです。

一方で、司法試験や公務員試験を目指す人は、入学と同時に猛勉強に没頭します。こうしたエリートの中から、のちに考えられないようなスキャンダルに登場し、膨大な財政赤字をつくる人も出ました。

2 得意な分野をもとに、活躍の場を広げる  
優れた業績を上げたり、その分野で認められた人が、それを土台にして広く活躍し、さまざまな発信をされています。

まず、これだけは得意だというものをもって、それをもとに視野を広げることです。科学・学術審議会は将来の人材像として、専門に閉じこもるのではなく、幅広い視野に立つ柔軟性が必要で、さらに教養、人格、指導力をあげています。

3 書くことは知性を磨く有効な方法です  
立花隆さんは学生に「本を發行」することを目標にされているそうです。「本を發行」する一連の流れのなかで、自分の考え方を構想、取材や調査で研究の基本を学び、論理力、国語力をどうすれば読者に理解してもらおうかを学ぶ、取材や印刷などの交渉を通してさまざまな人と接する

ことで社会を知ることができることをあげています。

理系の人も、仕事の上でもあなたの意思を伝えなければならないでしょう。論文、雑誌など外に発信する機会があれば大いに試みましょう。

科学界は業績を評価するのに論文主義をとり、専門誌で、しかも英文で外国で発表するのが有利です。これにはノーベル賞を受賞したクロート博士(英国)とスモーリー博士(米国)より15年も前に、日本語で専門誌にサッカーボール型のフラレン(C<sub>60</sub>)を予言した大沢映二教授が受賞の対象にならなかった有名な話があります。本学の国際基礎工学科は一つの試みでしょう。

#### ●●やりがいと感動を

NHKがテレビと出版で取り組んでいる「プロジェクトX・挑戦者たち」に、さまざまな開発に挑戦した技術者たちが登場します。NHK独特の感傷があるとしても、このテーマは「感動」です。激しい競争にあっても、やはり「やりがいと感動」することが大切です。

よく引用させていただくのですが、国木田独歩は「非凡なる凡人」のなかで、工学院生の桂正作という人物を通して、「非凡ではないが、凡人ではない」と描いています。昇進・出世などを取り上げている竹内洋京大教授は、これを、当時の庶民の「ささやかな立身出世」としました。

どうか、「ささやかな」だけにとどまることなく、さらなる知性と人間性をもって、広く多彩に発展することを願ってやみません。

## 昭和38年度卒自動車部仲間の集い

昭和38年度機械工学科卒業

### 岡崎良興

われわれ昭和38年度卒は母校を出て、39年余になりました。その仲間である自動車部では、一家の御台所である、かあちゃんを同伴しての家族旅行を計画しました。このたびで8回目となります。

最初の時、男同士は皆顔見知りの仲間ですが、ご夫人連は皆様初対面でした。初対面での集まりはどうか一と、不安な気持ちもありましたが、皆が一堂に会して気がつきました。“女3人寄れば何とやら”の諺のある通り、また“安ずるより生むが易し”の如く男同士の心配をよそに初めから旧知の友達のように全く打ち溶け、互いに今までの生活ぶり、子どもの話、孫の話などと尽きない話題で大いに盛り上がり、男連中は安堵するやら諺の意味を改めて再認識したところでした。伴に似たもの同士の集まりでした。

以後、2年毎に心待ちしている楽しみな集いが続き、2002年で8回目となった次第です。

今までの旅行地は、下記の通りです。

- ①山形蔵王・山寺／②伊豆半島
- ③秩父山麓／④草津温泉・浅間山高原
- ⑤佐渡島一周／⑥東京お台場めぐり
- ⑦那須塩原温泉
- ⑧出羽三山神社・銀山温泉

第1回～第3回までは数家族の少人数での集まりであったが、第4回目からは他の皆様にも賛同を得て、ほとんどのメンバーが集まる楽しみ

### 校友の皆さん、お元気ですか！／私も頑張っています

な旅行になりました。

今回、8回目旅行への参加者14人の写真を添付しておきます。

39年前を振り返ってみると、卒業時に就職指導をしていただきました。高橋こと子先生、ならびに卒論の指導をしていただきました諸先生方には、出来の悪い我々に対し多大なるご尽力、ご指導をいただき、無事に卒業、就職をさせていただきました。誠にありがとうございました。改めて昔を思い出しながら、心より感謝申し上げます。

その我々も還暦を過ぎ、所謂、定年を迎える年齢になりました。小生はじめ大部分がサラリーマンを引退した年金生活の同類者ですが、元気に酒を呑み、大声で話し合う昔と一緒に仲間として今度も大変すばらしい一夜ひとときを過ごすことができました。

健康で元気であるからこそ、このように皆で集まり、賑やかな仲間、口うるさい仲間と会えるものと思います。過去の旅行の思い出は数多くありますが、今度の旅行について記すことにします。

■□■

今回は2002年9月12日から13日にかけての山形旅行です。山形は出羽三山神社と銀山温泉です。

出羽三山は、月山、羽黒山、湯殿山の総称で、その一角に出羽三山神社が合祀されています。神社での参拝もそこそこに境内にある“齋館”にて昼食をとることにしました。この齋館では昔懐かしい質素な、味のあつくり、おいしく楽しい食を得ることができました。その後、数人の

仲間“五重の塔”がある羽黒山神社まで散策するということになりました。散策は約30分くらいの道のりですが、途中には樹齢数百年を越す杉木立があり、2,446段の石段を杉の空気を腹一杯に吸い、夕餉の酒を楽しむに一段ずつ歩いてきました。

杉木立の空気は、木の間からのぞく太陽の光とともに明日の活力をよぶ健康の源のように感じる、大変すばらしい感激を思い起こすものでした。

山を下り、一路、今夜の泊まり宿へ向かいました。宿泊は、銀山温泉(山形県の東、北に位置する尾花沢市<sup>おはなざわ</sup>にある)です。銀山温泉は、昔、江戸時代幕府直轄の鉱山として栄え、当時日本三大鉱山の一つに数えられ、20万人もの人々が集まったと伝えられているそうです。現在の温泉街は大正ロマンの漂う古い家並みが建つ湯の街として知られています。

われわれの泊まった宿もごたごたした街の中央にある木造造りの古びた階建てでした。夜の宴会場も仕切り一枚でお互い客同士の声が筒抜けといえる状況で、賑やか過ぎる、やかまし過ぎる処でした。幸い、当日は山形名物の“花笠踊り”を見ることができました。花笠踊りは街中のどこから集まったかと思うほどの人が出て、篝火の光を伴って、まさに大正ロマンの街と化す、すばらしい眺めでした。当尾花沢市は花笠踊り発祥の地だそうです。お陰で我々



■はい、チーズ(後・右端が筆者)

われの楽しい昔話も中断せざるを得ない状態でありました。

今度の旅も終環りです。次は2004年、東京に集まります。どんな酒を呑み、何を食べ、どんな処に行き、どんな話ができるか楽しみです。明日からの2年間、健康で元気に暮らし、再会を待ちたいと思います。

□■□

山形での校友会活動は、平吹支部長をはじめ、各界で皆様活躍しています。毎年の総会(2002年は7月末)では本部より松為迪夫部長がお見えになり、全国の校友会活動状況や大学の様子など、いろいろとお話をいただき誠にありがたく思います。小生もこの総会でのお話を心待ちしている一人です。

今後とも、大学はじめ、校友会のますますのご発展をご祈念申し上げます。併せて先輩、後輩諸氏のご活躍を期待しています。

終わりに、我々“38年度卒自動車部仲間の集い”を本誌に投稿させていただく機会を賜わり、ありがとうございました。拙い文面ですが、ご一読いただければ幸いと存じます。

### 先輩の皆さん、学園に来て下さい

## 現役生の活動から☆☆☆☆スポーツもガンバレ、工学院!!

### 大学

#### 柔道部の最近の活躍

大藪由夫 柔道部部长



■演武「古式の形」/取:大石八段(本学非常勤講師・柔道部師範)、受:片田七段(警視庁師範)

柔道部は、本学すべての部のなかで最も古い方に属する。最近の5、6年間は、全日本理工系大会において、準優勝1回、三位2回の輝かしい成績を収めている。

新体育館の建設に伴い、柔道場も新しくなった。先日(2002年11月16日/土)には、1部、2部および専門学校OB合同参加による柔道場開きを盛大に行った。

最近、学生の間での柔道人気は低迷の傾向にある。しかしながら、国際化に伴い、本学学生の海外での交



流、活躍が盛んになるにつれ、柔道は重要になってくるものと考えている。我が国の運動、スポーツ種目において、柔道はオリンピックの公式競技種目として唯一のものだからである。

自国の文化、スポーツを学び、その独自性を世界の人々に知ってもらうことが、国際交流の第一歩である。

#### 硬式野球部の歴史

町田直樹 I部体育会硬式野球部監督

硬式野球部が加盟する東京新大学野球連盟は、平成14年度に創立50周年を迎えました。

現在、同連盟は21大学が加盟する大所帯ですが、その歴史の中で工学

院大学の先輩方が果たして来られた功績は誠に大きなものがあります。工学院大学は、1951年(昭和26年)の「東京都新制大学野球連盟」発足に大きく貢献し、続く1957年(昭和32年)の「東京新大学野球連名」の結成を実現しました。以来、同連盟1部リーグでの優勝回数8回、全日本大学野球選手権への出場回数3回とい



う輝かしい成績を残しております。現在のチームは同連盟の3部リーグで戦っておりますが、選手たちは先輩方の築かれた歴史の重みを感じつつ、その功績に恥じぬよう一試合一試合を大事に戦うよう心掛けております。

硬式野球部のOB組織として、「巖球会」が結成されております。「巖球会」は、OB相互の交流と現役部員への支援を目的としております。毎年一度、八王子キャンパスにて現役野球部員との交流試合と総会を行っております。現役部員はこうして物心両面でOBの方々へ面倒を見てもらっております。

硬式野球部の活動につきましては、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/9813/>

先輩の皆さん、学園に来て下さい／現役生の活動から

中学・高等学校

野球部の近況

高橋憲治 野球部部長兼総監督

校友会の皆様には、高校野球部を日頃よりご声援いただき、またこのたびは会報にも取り上げていただき、ありがとうございます。

昭和64年秋期大会ではあと1勝、平成3・4年の夏期大会ではあと2勝と、甲子園大会出場まであと一步のところまでいきました。しかしながら、その後はやや低迷し、先輩方には期待はずれの結果となっております。



平成14年の夏期大会では5回戦まで進み、準優勝した日大鶴ヶ丘高校に負け、ベスト16という結果でした。また、秋期大会では初戦の東京学園に思わぬ敗戦をしてしまいました。その後は初戦敗退の屈辱と反省を胸に、今季の巻き返しをすべく努力してきました。

スポーツ推薦で選手勧誘もしていますが、優秀な選手がなかなか集まらない現状です。諸先輩方のお知り合いで優秀な野球選手がおりましたら、ぜひ推薦していただけたら幸いです。

今後とも、ご支援・ご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

柔道部の近況

青木慎英 柔道部監督

校友会の皆様には、日頃から多大なるご指導、ご支援をいただき感謝

しております。

昨年度より共学化になり女子部員も迎え、また中学生部員も年々増え、活気ある部活動が展開されています。

昨年度は、関東大会50周年という

節目の年に、2年連続19回目の大会出場を果たし、歴史に名前を刻みました。また、参加校が300校を超える金鷲旗高校柔道全国大会におきましては、4回戦出場ベスト64(天理高校に敗退)という成果を挙げました。その他、都大会でも団体、個人戦ともに上位入賞を果たしております。

今年度は、20回目の関東大会出場を目標に、全国大会を視野に入れ、一意専心の気持ちで稽古に励むとともに、柔道の原点、理念である「心の教育」を忘れず指導に尽力したいと考えております。

部長、監督、生徒が一丸となり精進いたしますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



◆社団法人工学院大学校友会◆

「第58回評議員会&第47回総会」開催のお知らせ

会長 南雲芳夫

日時●平成15年5月25日(日) / 12:20~18:30

場所●工学院大学新宿校舎3階0312号教室

議案●第1号議案:平成14年度事業報告、収支決算報告ならびに財産目録承認の件

第2号議案:平成15年度事業計画(案)ならびに収支予算(案)承認の件

(\*1) 本誌同封のハガキにより、折返し、出欠についてご回答下さい。ハガキに50円切手をお貼り下さい。

(\*2) 施行細則第13条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示と見なして出席者数に加えることができることになっておりますのでこの点あらかじめご了承下さい。

【総会当日のプログラム】

◆評議員会・総会

受付●12:00より

感謝状贈呈・相談役推薦者紹介●12:25より

議事●12:50より

◆講演会・表彰式

会長挨拶●14:10より

来賓挨拶●14:20より

学園近況報告●14:30より

優秀学生・生徒表彰●14:45より

講演●15:30より

※なお、講演会終了後中層棟7階食堂にて17:05より懇親会を開催いたします。

【講演について】

講演者●細川佳代子氏(細川護熙元総理大臣夫人)

演題●「スペシャルオリンピックスの楽しさ」

(知的発達障害を持つ方達のオリンピック)



【略歴】

昭和41年3月●上智大学英文科卒業

昭和41年4月●(株)晃和ディスプレイ入社

昭和41年8月●同社より欧州駐在員として渡欧

昭和44年5月●同社を退社

昭和44年12月●英国へ留学

昭和45年4月●日本ライセンス・コーポレーション(映画輸入会社)に駐在員入社

昭和46年9月●細川護熙氏と結婚

以降、27年間政治活動を支える一方、種々のボランティア活動に積極的に取り組み現在に至る。

現在、特定非営利活動法人「スペシャルオリンピックス日本」理事長、「世界の子どもにワクチンを」日本委員会代表を務める。

総会・評議員会へご意見のある方は、事前に事務局へお寄せ下さい!

上記の「お知らせ」のように、5月25日(日)に「平成15年度総会・評議員会」が開催されますが、当日、発言を予定されている方は、事前に校友会事務局までFax.(03-3342-2035)にてご意見をお寄せ下さい。

平成15年度の総会・評議員会は、従来のパターンを変えて講演会、表彰式の前段で開催いたします。

総会・評議員会終了の時間を厳守する必要からご協力下さいます様お願いいたします。

### ■平成14年度 事業報告

平成14年度において下記の通りの事業活動を行ないました。

事業に関する定款条文	事業内容
1. 学校の教育施設に関する助成 (定款 第5条第1項)	●学園援助費寄付
2. 学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動 ならびに教職員の調査研究の助成 (定款 第5条第2項)	●学生・生徒の研修援助 ①優秀学生・生徒の表彰 ②学生の研修活動に対する援助・支援
3. 会誌および学術図書の刊行 (定款 第5条第3項)	●校友会報123号の発行 ●会員名簿の更新・CD-ROM名簿の発行
4. 学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款 第5条第4項)	●学術講演会開催(総会・新年祝賀会開催時) ●各支部での見学会開催 ●総合研究所主催の学術講演会への協賛
5. 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置 (定款 第5条第5項)	●新年祝賀会・懇親会の開催 ●総会・評議員会後の懇親会開催 ●各支部の支援および支部組織の活性化 ●第2回ホームカミングデー開催への協力 ●各種同好会活動の支援 ●各支部総会・懇親会の開催(39支部 807名)
6. 学校が行なう就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款 第5条第6項)	●就職先の紹介 ●後援会・PTAとの懇談会開催

### ■平成15年度 事業計画(案)

平成15年度において下記の通りの事業活動を行ないます。

事業に関する定款条文	事業内容
1. 学校の教育施設に関する助成 (定款 第5条第1項)	●学園の教育施設の新増設に対する助成 ●学園の将来計画に対する協力
2. 学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動 ならびに教職員の調査研究の助成 (定款 第5条第2項)	●学生・生徒の研修援助 ①優秀学生・生徒の表彰 ②学生の研修活動に対する援助・支援
3. 会誌および学術図書の刊行 (定款 第5条第3項)	●校友会報124号の発行 ●会員名簿の更新・CD-ROM名簿の発行
4. 学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款 第5条第4項)	●学術講演会開催・協賛 ●各支部での各種見学会開催の支援
5. 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款 第5条第5項)	●新年祝賀会・懇親会の開催 ●総会・評議員会後の懇親会開催 ●各支部の支援および支部組織の活性化 ●学園が行なう社会的活動への援助・支援 ●第3回ホームカミングデー開催への協力 ●各種同好会活動の支援 ●各支部総会・懇親会の開催
6. 学校が行なう就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款 第5条第6項)	●就職先の紹介 ●後援会・PTAとの懇談会開催

### ■平成14年度 収支計算書

平成14年4月1日～平成15年3月31日 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
①収入の部	0	0	0
基本財産運用収入	30,000	10,000	20,000
基本財産利息収入	30,000	10,000	20,000
会費収入	43,596,000	43,594,000	2,000
会費収入	43,596,000	43,594,000	2,000
協力会費収入	3,000,000	2,507,500	492,500
協力会費収入	3,000,000	2,507,500	492,500
寄付金収入	180,000	865,898	△ 685,898
寄付金収入	180,000	865,898	△ 685,898
雑収入	900,000	705,165	194,835
受取利息・配当	500,000	348,273	151,727
雑収入	400,000	356,892	43,108
当期収入合計(A)	47,706,000	47,682,563	23,437
前期繰越収支差額	3,214,917	3,214,917	0
収入合計(B)	50,920,917	50,897,480	23,437
②支出の部	0	0	0
事業費	30,675,000	29,073,529	1,601,471
学園援助費	2,500,000	2,499,340	660
学生・生徒活動援助費	2,500,000	2,500,000	0
学生・生徒奨励金	1,350,000	1,344,000	6,000
会報印刷費	4,100,000	3,975,000	125,000
発送作業費	650,000	315,349	334,651
郵送費	6,000,000	5,381,018	618,982
取材費	500,000	314,573	185,427
印刷費	1,200,000	2,227,333	△ 1,027,333
協力会費割戻金	900,000	735,810	164,190
支部出張費	1,875,000	1,856,034	18,966
支部総会費	350,000	241,000	109,000
支部配布費	600,000	0	600,000
給与手当	5,500,000	5,482,905	17,095
福利厚生費	300,000	114,647	185,353
全国大会費	1,000,000	1,000,000	0
全国大会経費	550,000	479,232	70,768
校友ネットワーク構築費	700,000	570,917	129,083
消耗雑費	100,000	36,371	63,629
管理費	15,131,000	13,479,438	1,651,562
総会費	1,600,000	1,592,925	7,075
本部会議費	1,500,000	1,259,844	240,156
その他会議費	3,250,000	2,613,792	636,208
給与手当	5,000,000	4,999,699	301
福利厚生費	700,000	603,471	96,529
旅費・交通費	50,000	41,250	8,750
通信費	900,000	898,146	1,854
振替手数料	100,000	70,240	29,760
事務用品費	600,000	500,093	99,907
消耗品費	60,000	0	60,000
印刷製本費	70,000	61,075	8,925
修繕費	270,000	127,193	142,807
賃借費	200,000	259,560	△ 59,560
対外費	100,000	53,612	46,388
慶弔費	300,000	282,501	17,499
公租公課	50,000	0	50,000
雑費	381,000	116,037	264,963
固定資産支出	500,000	285,684	214,316
資産取得支出	500,000	285,684	214,316
特定資産支出	3,400,000	2,900,000	500,000
会館建設引当支出	1,000,000	500,000	500,000
退職給与引当支出	400,000	400,000	0
奨学資金引当支	1,000,000	1,000,000	0
学園施設引当支	1,000,000	1,000,000	0
予備費	1,000,000	—	1,000,000
当期支出合計(C)	50,706,000	45,738,651	4,967,349
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,000,000	1,943,912	△ 4,943,912
次期繰越収支差額(B)-(C)	214,917	5,158,829	△ 4,943,912

### ■平成15年度 収支予算書(案)

平成15年4月1日～平成16年3月31日 (単位:千円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
①収入の部			
基本財産利息収入	10	30	△ 20
会費収入(6単体)	38,583	43,596	△ 5,013
協力会費収入	4,000	3,000	1,000
寄付金収入	300	180	120
雑収入	450	900	△ 450
当期収入合計	43,343	47,706	△ 4,363
前期繰越収支差額	5,158	3,000	2,158
収入合計	48,501	50,706	△ 2,205
②支出の部			
事業費	31,145	30,675	470
学園援助費	2,500	2,500	0
学生・生徒活動援助費	2,500	2,500	0
学生・生徒奨励金	1,400	1,350	50
会報・出版費	10,380	11,250	△ 870
会報印刷費	4,300	4,100	200
発送作業費	410	650	△ 240
郵送費	5,370	6,000	△ 630
取材費	300	500	△ 200
印刷費	2,750	1,200	1,550
支部関係費	3,115	3,725	△ 610
維持会費還付金	800	900	△ 100
支部出張費	1,875	1,875	0
支部総会費	240	350	△ 110
支部配布費	0	600	△ 600
支部関係雑費	200	0	200
人件費	5,650	5,800	△ 150
給与手当	5,500	5,500	0
福利厚生費	150	300	△ 150
特別事業費	2,600	1,550	1,050
全国大会費	2,000	1,000	1,000
全国大会準備費	600	550	50
校友ネットワーク構築費	200	700	△ 500
消耗雑費	50	100	△ 50
管理費	15,410	15,131	279
総会費	1,600	1,600	0
本部会議費	1,600	1,500	100
その他の会議費	3,570	3,250	320
人件費	5,850	5,700	150
給与手当	5,200	5,000	200
福利厚生費	650	700	△ 50
旅費・交通費	150	50	100
通信費	950	900	50
振替手数料	100	100	0
事務用品費	600	600	0
消耗品費	40	60	△ 20
印刷製本費	80	70	10
修繕費	60	270	△ 210
賃借費	250	200	50
対外費	50	100	△ 50
慶弔費	300	300	0
公租公課	10	50	△ 40
雑費	200	381	△ 181
資産取得支出	250	500	△ 250
資産購入支出	500	500	0
特定資産支出	400	3,400	△ 3,000
会館建設引当資産支出	0	1,000	△ 1,000
退職給与引当資産支出	400	400	0
学園施設援助基金支出	0	1,000	△ 1,000
奨学資金積立基金支出	0	1,000	△ 1,000
予備費	1,000	1,000	0
当期支出合計	48,205	50,706	△ 2,501
当期収支差額	△ 4,862	△ 3,000	△ 1,862
合計	43,343	47,706	△ 4,363
次期繰越収支差額	296		

(△印は前年度より減を示す)



**平成14年度 貸借対象表** (平成15年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1. 流動資産	10,155,769	1. 流動負債	90,885,378
2. 固定資産	249,833,698	2. 固定負債	5,785,600
		3. 正味財産 (うち基本金)	163,318,489 (20,000,000)
合計	259,989,467	合計	259,989,467

**平成14年度 財産目録** (平成15年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産	10,155,769	負債	
1. 現金預貯金	10,155,769	1. 一般預り金	196,378
固定資産	249,833,698	2. 在学生会費預り金	90,689,000
1. 基本財産引当預金	20,000,000	3. 退職給与引当金	5,785,600
2. 什器備品	845,298	正味財産	163,318,489
3. 電話加入権	102,800	(うち基本金)	(20,000,000)
4. 長期預金	228,885,600		
合計	259,989,467	合計	259,989,467

**訃報**

次の方々をご逝去されました。

中学校高等学校教諭 **金子 伸一氏** (平成14年6月17日)

名誉教授 **村上 徹朗氏** (平成14年7月2日)

法人評議員・校友会理事 **佐合 道也氏** (平成14年7月15日)

校友会相談役 **池田 和夫氏** (平成14年9月5日)

親子三代工学院 **重村 伝平氏** (平成14年8月25日)

前法人監事・元校友会理事 **上野 寿幸氏** (平成15年1月21日)

校友会評議員・東京支部副支部長 **曾雌 久義氏** (平成15年1月21日)

長く本会の役員を勤められ、学園および校友会にご尽力いただきました佐合道也氏、池田和夫氏、上野寿幸氏が相次いで亡くなられ、校友会にとって深い悲しみに包まれた1年でした。皆様方のご生前のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

**平成14年度 支部総会開催実績**

月日	支部
4月20日	岐阜県支部・鳥取県支部
4月21日	山口県支部
5月10日	鹿児島県支部
5月11日	岩手県支部
5月19日	栃木県支部・愛知県支部
6月2日	埼玉県中央支部
6月9日	西東京支部・広島県支部
6月17日	宮城県支部
6月21日	山梨県支部
6月22日	熊本県支部
6月23日	大阪支部
6月29日	高知県支部
6月30日	石川県支部
7月5日	東芝支部
7月6日	川崎支部・横浜支部・相模支部・湘南支部・西湘支部
7月13日	新宿支部・中野支部・島根県支部
7月27日	山形県支部
8月31日	千葉県支部
9月14日	北海道支部
9月28日	青森県支部
10月5日	兵庫県支部
10月20日	東京支部
11月2日	岩手県支部
11月9日	福島県支部
11月17日	埼玉県西支部
11月22日	沖縄県支部
11月23日	大分県支部
12月1日	福井県支部
12月5日	日本電気支部
12月14日	京滋支部
2月22日	福岡県支部

**平成15年度 支部総会開催予定** (2003年2月末日現在)

月日	支部
5月9日	鹿児島県支部
5月17日	川崎支部・横浜支部・相模支部・湘南支部・西湘支部
5月18日	静岡県支部・栃木県支部・愛知県支部
5月30日	鳥取県支部
6月1日	埼玉県中央支部
6月7日	西東京支部・広島県支部
6月14日	宮城県支部
6月15日	埼玉県西支部
6月22日	千葉県支部
6月28日	高知県支部
6月29日	石川県支部
7月5日	山形県支部
7月11日	全国支部長会・山口県支部
7月12日	大阪支部
7月19日	新宿支部
9月20日	北海道支部
10月20日	東京支部
10月25日	新潟県支部・青森県支部
11月8日	岩手県支部
11月12日	日本電気支部
11月15日	大分県支部・福島県支部
11月21日	沖縄県支部
11月23日	長野県支部
11月29日	京滋支部

**学生・生徒の表彰** (平成14年度総会において)

**[大学院]**

専攻	氏名
機械工学専攻2年	井出寿治
化学応用学専攻2年	森ヶ崎信人
電気・電子工学専攻1年	藤沢正展
情報学専攻1年	鈴木一弘
建築学専攻2年	竹波由有子

**[大学]**

学科	氏名
第一部 機械工学科2年	天野倫平
第一部 機械システム工学科2年	奥山隆行
第一部 国際基礎工学科2年	滝本達也
第二部 機械工学科2年	工藤浩介
第一部 環境化学工学科2年	峰尾洋一
第一部 応用化学科2年	森 雅俊
第二部 工業化学科2年	中西 淳
第一部 電気工学科3年	野中和哉
第一部 電子工学科3年	田辺直之
第一部 情報工学科2年	永峰和也
第一部 建築都市デザイン学科2年	杉本真奈美
第一部 建築都市デザイン学科2年	高橋聡磨
第二部 建築学科2年	鈴木庸介

**[専門学校]**

学科	氏名
昼間部 建築科2年	阿久津信博
昼間部 応用化学科2年	小宮弘次
昼間部 建築科2年	橋本かおり
昼間部 機械設計CAD科2年	小暮明日香
昼間部 建築科2年	久保麻有子
夜間部 建築科2年	石井宏尚

**[附属高校]**

学年	氏名
3年	松岡雄大
2年	山田将寛
2年	大宮伸一郎

**[附属中学校]**

学年	氏名
3年	塩嶋緋宏樹
2年	樋山駿斗

## 校友会事務局からの「お知らせ」

### ① 2003年度版卒業生名簿(CD-ROM)の配布配給!

本年度の卒業生名簿(CD-ROM)は、大学院、大学、専門学校、附属高等学校の卒業予定者を含む全卒業生名簿と校歌を掲載してあります。

OSは、Windows 95・98・ME・NT・XP対応となっておりますが、MAC対応にはなっていません。希望者は、一枚3,000円(送料込み)でお分けしております。同封の振り替え用紙でお振込みいただければお送りいたします。なお、校友会提携カード会員は、半額の1,500円でお分けいたします。会員のプライバシー保護のため、会員以外の方への譲渡または貸与はご遠慮下さい。



### ② 維持協定会費納入のお願い

毎年、皆様からご協力いただいております維持協定会費は平成14年度は2,502,000円に達しておりますが、学園の援助、学生・生徒活動の援助のためにはまだまだ低い水準にあります。現在のところ、会員の住所判明者は65,000人に達しておりますが、維持協定会費納入者は1,000名にも届いていない現状にあります。

在学中に納入いただいている終身会費だけでは校友会の今後の運営が難しくなっている状況にあります。社団法人格を有している工学院大学校友会として現状以上に学園を援助してゆく必要があります。同封の振込用紙により皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



### ③ E-mail アドレスをお持ちの方は是非ともご協力を!

平成14年3月から会員に対し、E-mailによる発信態勢の構築に取り掛かっております。将来はE-mailによる情報発信を活発化することを計画中でありますので、E-mailアドレスをお持ちの方は、同封の総会出席返信はがきに是非ともご記入の上、投函下さいますようお願いいたします。



### ④ 工学院大学校友会 STEC VISA カードのご案内

工学院大学校友会 STEC VISA カードは、

- (社)工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがご持ちいただけるエンブレムカードです。(工学院大学校友会と三井住友カード(株)が提携発行する公認カード)
- 会員の方がこのカードをお使いになると、その利用金額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社より校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は、一切負担になることはありませんので、申し込みご希望の方は、同封の総会委任状ハガキの連絡欄に○印をつけてご返送下さい。



### ⑤ 校友会ホームページのご案内

校友会ではホームページを開設しております。

校友会から学園本部、各同窓会、各支部のそれぞれのホームページとリンクしておりますので、ご活用下さい。なお、校友会のホームページのアドレスは、<http://www.mesh.ne.jp/kkoyukai/> です。

\*上記の件に関するすべてのお問い合わせは、 ☎ 03-3342-2064  
Fax. 03-3342-2035  
E-mail: [kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp](mailto:kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp) までお願いいたします。

## (社)日本工学アカデミーが主催する公開講演会に、わが校友会が協賛!

工学分野では日本を代表する「社団法人日本工学アカデミー」が主催する公開講演会に、工学院大学校友会が協賛することになりました。工学院大学は明治21年に工手学校としてスタートして以来、物づくりに主眼を置いた実践的教育を展開してきた歴史を有し、学園の歴史も115年を超える歴史を刻んできております。今回の(社)日本工学アカデミーの公開講演会の開催に当たり、前期まで学校法人工学院大学の理事をされていた内田盛也先生(現在の要職については開催内容の閉会の辞の項参照)から工学院大学のこれまでの教育内容・歴史を評価され、公開講演会を協賛するにふさわしい団体ということで推薦をいただきました。内田盛也先生の配慮に感謝するとともに、大変に光栄なこととして受け止め協賛することにいたしました。講演会の内容などは資料に示す通りですが、皆さんも振るってご参加下さい。

## 公開講演会「国家戦略としての産業人材育成」

——技術の創造、蓄積、伝承と啓蒙——

### 【開催趣旨】

明治開国時、政府は産業技術立国の基盤整備のため指導者育成機関として「工部大学校」(後に東京大学と合体)、官立美術学校「工部美術学校」(現東京芸術大学)、東京職工学校(現東京工業大学)を創設した。

わが国は古代中国、インドなどの文明を伝承し、優れた工芸技術を発達させ、それらの技術・技能者の修練をもとに、奈良・京都の宮廷文化、世界最大都市江戸の庶民文化を開花させて来た。その風土と日本人の感性と技術を古代、近代、現代共存の生活文化を一体化した勤労尊重の風土が、西欧文明の移植、消化、改良、発展、創造を迅速に達成し、近代国家へ脱皮するとともに世界第2位の経済大国となる原動力となった。

近年、こうしたわが国の誇るべき歴史的事実についての教育が失われ、国家百年の大計として明治の指導者が抱いた英邁なる思想哲学が政策に見られないことを憂うものである。現在でも日本の産業技術力は世界最高にあるが、戦後の日本再建に挺身した技術者は停年とともに名も知られることなく去り、企業内で培ってきた技術者育成も困難となりつつある。

日本経済再生の鍵は新世紀の未来を展望し、産業界の実態・課題と教育界の心身ともに健全な開拓創作への基礎教育との連携による人づくりである。それには青少年に母なる日本への愛着と先人への敬意と人生目標と身を磨く修練の方向、選択の機会を与えることである。今回は国と民間が世紀をかけて培ってきた総合技術力の創造、蓄積、伝承の歴史、さらにそれらが今、世界へ雄飛しつつある姿を描き出すこととした。

教育基本法改正の折、これらの理念を広く社会へ反映浸透を願って本シンポジウムを開催することとした。

主催 (社)日本工学アカデミー

共催 (社)日本工学会、科学技術連合フォーラム、

協賛 高等専門学校連合会、全国工業高等学校校長協会、日本工学教育協会、全国中学校理科教育研究会、日本理化学協会、産業教育振興中央会、青少年科学技術フォーラム、日本技術士会、先端技術産業調査会、蔵前工業会、(社)工学院大学校友会

後援 文部科学省、経済産業省、国土交通省、文化庁、全国知事会、日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会、新世紀文明国会議員懇談会

### 【開催内容】

日時 ●平成 15年 5月 30日(金) / 13:00 ~ 17:00

場所 ●機械振興会館 (B3 研修室-2)

プログラム ●総合司会: 山田郁夫(日本工学アカデミー専務理事)

13:00 ~ 13:05 ◇開会の辞:

小野田武(日本工学アカデミー政策委員会委員長)

13:05 ~ 14:00 ◇基調講演

「新世紀を担う若者に告ぐ——わが国の文化と日本人の感性・心」:

西澤 潤一(日本工学アカデミー会長/岩手県立大学学長)

14:00 ~ 14:50

①「伝統繊維から自動車に至る産業技術——技術の伝承・発展・総合化への修練の道」:

加藤広樹(トヨタ産業技術記念館館長)

14:50 ~ 15:10 ◇休憩

15:10 ~ 16:00

②「新幹線建設と国鉄民営化を経験して——世界に誇る技術者の構想・決断・実行」:

山之内秀一郎(宇宙開発事業団理事長/日本工学アカデミー会員)

16:00 ~ 16:50

③「人材育成は国家百年の計——学校教育と生涯教育」:

大橋秀雄(工学院大学理事長/日本工学アカデミー会員)

16:50 ~ 17:00 ◇閉会の辞:

内田盛也(日本工学アカデミー政策委員会委員/科学技術連合フォーラム代表/日本工学会顧問)

★社団法人工学院大学校友会★

「第14回全国大会(福岡大会)開催」のお知らせ

博多の祭りを見にきんしゃい!

校友会会長 南雲芳夫 / 大会実行委員長 麻生好彦

■全国の校友のみなさん、2003年7月に福岡(博多)にお集まり下さい!

21世紀の最初の全国大会は、大陸に近くアジア諸国との交流の窓口として、二千年にわたる歴史を持ち古くから栄えた国際都市「福岡」において開催いたします。大会当日は九州を代表する祭り「博多祇園山笠」も盛大に行われております。この機会に是非、福岡(博多)にお越しいただきますようご案内申し上げます。

大会実施要項

開催日●2003年(平成15年)7月11日(金) 受付●15:00～16:00(鶴の間)  
 会場●ホテルニューオータニ博多(福岡市) 大会式典●16:00～17:30(鶴の間)  
 参加費●10,000円(ご家族は7,000円) 祝賀パーティ●18:00～20:00(鶴の間)

◆共催イベントのご案内

- 1 ゴルフ大会●7月10日:空港から約1時間のゴルフ場を予定しています。  
12:00スタート予定(プレー費実費)
- 2 観光コース●7月10日:日帰り「太宰府と博多人形・博多町屋ふるさと館」(参加費無料)  
7月12日: A九州名所めぐり湯布院・やまなみハイウェイ・阿蘇外輪山2日間  
Bハウステンボス2日間  
C日帰り「柳川川下りと御花」  
D日帰り「博多湾観光周遊」  
E日帰り「長崎市内と中華料理」

\*上記A～Eコースはオプション・ツアー(有料)です。詳細は別紙をご参照下さい。

会場(ホテルニューオータニ博多)までのアクセス:博多駅・天神からは、ほとんど待たずに乗れる西鉄100円バスが便利です。

博多駅からは……

JR博多口(新幹線側筑紫口の反対方向)を出て正面方向Aのりばから赤い表示の100円循環バス(キャナルシティ方面)以外のすべてのバスがご利用いただけます。渡辺通1丁目でお降り下さい(所要時間約7分)。

参加申込みは……

- 参加費を同封の郵便振込用紙にてお支払い下さい。
- 参加費を振り込まれた方には、福岡大会参加申込書、格安ビジネスパックご案内などの資料を送付いたします。
- 申込書に必要事項をご記入の上、大会事務局へFax.または封書郵便にて送付して下さい。
- ◆福岡大会参加申込み締切日:平成15年5月31日(土)
- ◆申込み後の取消し  
勝手ながら申込み後参加をとりやめられた場合は、振り込まれた参加費は大会の祝い金(寄付)とさせていただきますので予めご了承下さい。
- ◆格安ビジネスパック申込み締切日:平成15年6月15日必着
- ◆お申込み後、平成15年6月30日(日)頃までにFax.または郵送にて回答書・請求書・宿泊パウチャー券・航空券・JR券を日本通運(福岡旅行支店)から送付いたします。

◆交通と宿泊のご案内

交通と宿泊をセットにした割安なプラン(格安ビジネスパック)も準備しております。別途資料を、ご参照下さい。

◆問合せ先&参加申込書送付先  
大会実行委員会事務局

☎812-0017 福岡市博多区美野島2-11-18  
株式会社サン設計室内/担当:麻生好彦  
☎092-472-7883 / Fax. 092-471-5681

格安ビジネスパック・宿泊ホテル・航空券・観光(ご案内)

- 1. 格安ビジネスパック(1名様より) (\*各設定便には定員があり、先着順で締め切ります)  
 格安ビジネスパックは(往復割引航空運賃)+(ホテル代/朝食付き)の消費税込みの金額提示です。  
 ◎ホテルカテゴリーにより料金が異なります(希望ホテルが満室の場合は他のホテルをご案内します)。  
 ◎取消料基準(搭乗前日計算/お取消料は旅行代金に対して下記の通りです)  
 (1)21日前まで無料/(2)20日から8日前20%/(3)7日から2日前30%/(4)前日40%/(5)当日50%/(6)旅行開始後および無連絡不参加100%  
 ビジネスパック料金は、宿泊するホテルにより金額が異なりますが、安い方はホテルアセトン福岡、高い方はホテルニューオオタニ博多の場合の料金ですが、この間に博多東急インもあります。

◆東京発着ビジネスパック(日本航空利用):日本航空希望便での往復になります。  
 1泊2日●シングル:31,500円～37,800円/ツイン:29,900円～35,800円  
 2泊3日●シングル:43,100円～48,300円/ツイン:39,800円～44,800円

◆名古屋発着ビジネスパック(日本航空利用)  
 1泊2日●シングル:29,700円～37,300円/ツイン:28,100円～34,800円  
 2泊3日●シングル:42,800円～47,300円/ツイン:39,400円～44,800円

◆大阪発着(伊丹/関空)ビジネスパック(日本航空利用):日本航空希望便での往復になります。  
 1泊2日●シングル:28,100円～33,800円/ツイン:26,500円～31,300円  
 2泊3日●シングル:39,800円～43,800円/ツイン:36,500円～40,300円

◆札幌発着ビジネスパック(日本航空利用):日本航空希望便での往復になります。  
 1泊2日●シングル:53,800円～54,800円/ツイン:52,300円～52,300円  
 2泊3日●シングル:63,800円～64,800円/ツイン:61,300円～61,300円  
 札幌発着便には、ホテルアセトン福岡の設定はなく安い方は博多東急インの料金です。

◆仙台発着ビジネスパック(日本航空利用):日本航空希望便での往復になります。  
 1泊2日●シングル:49,300円～49,800円/ツイン:47,800円～47,800円  
 2泊3日●シングル:59,300円～60,300円/ツイン:56,800円～56,800円  
 仙台発着便には、ホテルアセトン福岡の設定はなく安い方は博多東急インの料金です。

2. 宿泊ホテル(大会特別料金適用。各ホテルとも定員があり、先着順で締め切ります)

7月11日●シングル:9,200円～14,700円/ツイン:9,000円～9,500円  
 7月12日●シングル:9,000円～18,500円/ツイン:9,000円～13,500円

3. 航空券のご案内

航空会社設定の各種割引航空券の取扱が可能です。席に限りがありますのでお早めにお申込みされることをおすすめします。下記料金は得割航空運賃での案内になっています。  
 \*お申込み書に搭乗日、便名または出発時間、区間、割引種別をご記入の上お申込み下さい。お申込みの時点でご希望の便が満席の場合、およびご指定の割引料金で予約できない場合がございますのでご了承下さい。

区間	片道得割料金
札幌	¥31,500
仙台	¥30,300
東京	¥17,500
名古屋	¥13,500
大阪	¥11,500



4. 観光コースのご案内

◆コースA:「別府温泉に泊まる／九州名地めぐり湯布院・やまなみハイウェイ・阿蘇外輪山」

九州を代表する人気スポットを2日間でご案内するお奨めな旅行です。宿泊は別府温泉でも人気の高い「ホテル白菊」にお泊りいただきます。もちろん露天風呂付きです。

- ①旅行代金●1名1室:¥45,000 / 2名1室:¥36,000 / 3名1室:¥33,000 / 4名1室以上:¥31,000
- ②最少催行人員●30名様以上 / ③食事●朝1回・昼2回・夕1回

[1日目] 7月12日(土)	08:00 ホテルニューオータニ博多	08:15 天神	08:30 JR博多駅	福岡都市高速・九州自動車道
	10:00~13:00 湯布院IC	湯布院散策(金鱗湖・湯布院民芸村:各自払い)	14:30~15:30 高崎山自然公園	
[2日目] 7月13日(日)	08:00 別府温泉	09:00 水分峠	10:10~10:30 飯田高原	11:30~11:50 大観峰(阿蘇外輪山眺望)
	12:30~14:00 阿蘇山頂	15:00~16:00 阿蘇さる廻し劇場	17:00 大津	熊本IC
	19:00 福岡都市高速	19:20 福岡空港		JR博多駅

◆コースB:「ハウステンボス2日間」

博多駅からはJR特別割引切符を利用しお好きな時間帯の列車をご利用下さい。お泊りは日航ハウステンボスを予定。

- ①旅行代金●1名1室:¥28,900 / 2名1室:¥23,900 / 3名1室:¥22,900
- ②最少催行人員●20名様以上 / ③食事●朝1回・昼なし・夕なし / \*ハウステンボス2日間入場券付き

[1日目] 7月12日(土)	博多駅	所要時間 100分	ハウステンボス駅★★★★ハウステンボス自由散策
[2日目] 7月13日(日)	出発までハウステンボスをお楽しみください。 ◎ハウステンボス駅.....博多駅		

◆コースC:「柳川川下りと御花」(旅行代金●¥8,500)

7月12日(土)	09:00 天神	09:30 博多駅	八女IC	白秋生家	お花(昼食:饅頭のセイロ蒸)
	古賀記念館	八女IC	福岡空港	博多駅	天神

◆コースD:「博多湾観光周遊」(旅行代金●¥10,500)

7月12日(土)	09:00 天神	09:30 博多駅	マリンワールド	マリンラーナー	百道地区(シーホークホテル:昼食)
	福岡タワー・福岡ドーム	福岡空港	博多駅	天神	

◆コースE:「長崎市内と中華料理」(旅行代金●¥10,500)

7月12日(土)	09:00 天神	09:30 博多駅	長崎市内観光(グラバー園・大浦天主堂・平和公園)		
	新地(昼食:中華料理)	福岡空港	博多駅	天神	

\*交通事情により福岡空港・JR博多駅の到着時間が遅れる場合がありますので、帰りの交通機関の手配は余裕を持ってご予約下さい。

【編集後記】

校友会役員諸士の総数は、多くみても100人前後、全卒業生/校友11万人から換算すれば、1/1,000くらいの方々は何らかの接点により、学園・校友会の動きなどを見聞することを得ていると思います。

それを除く多くの校友と校友会との接続点は、発行部数6万3,000部の校友会報で、これが唯一とは言わないまでも、他ほとんど無とされます。しかるに、これを充実することに異を唱え、ましてや文部科学省の指導なる文言を用いて、「『校友会報』は従来の最小限に知らせるものだけ載せれば事足りる、充実させるのは50%の人が反対している」などと発言する人がいるのは、驚きの限りであります。予算削減の折、「校友会報」の充実が時代に逆行するなどと公言することも、また然りであります。校友との連帯を高める最良のtoolをムダにしないよう、これからも、あと1年ですが、最大限に努力する覚悟です。

(遅野井孝夫:校友会・広報担当副会長)

広報部会委員会は、12回行われました。その他にも打ち合わせ、座談会、インタビューと多くの集まりを経て、このような形になりました。

『校友会報』の目的は何か、何を知らせるのか……、『校友会報』の意味について考えました。やはり一番は、素晴らしい先輩たちの「生き方・考え方」を後輩に知らせることではないでしょうか。

今までは、「事務的な、最低限の情報でよい」とされてきました。しかし、この経済下であり、不況の中で、それではいはずがありません。良い情報がありそう、何か校友会は楽しそう……、そんなことが伝わり、それにより校友会行事の参加者が増え、より活発な動きになります。そのた

めにも予算配分は、大きな意味を待ちます。

日本を支える企業の予算配分をみると、広告宣伝費は、メーカーの場合、その製品価格の50%以上を占めると言われています。また、多くのボランティア団体も、その目的である事業資金が20%を超える団体は少ないです。実益のある予算配分を重視することが、校友会の発展につながります。

『校友会報』は、卒業生と校友会を結ぶホットラインです。皆さんの意見により内容記事、予算が決まります。『校友会報』に対して、全体的なボリューム、記事の内容、こんな企画記事など、意見をお寄せ下さい。

大変多くの人たちの協力により、この『校友会報』ができました。協力していただいた方々に、感謝し、お礼を申し上げます。(太田正利:校友会・広報部長)



■広報部会——  
左より小松崎、吉岡、中島、遅野井、岡安、太田、三好(円内:猪狩)

Tokyo Urban Tech  
工学院大学・校友会報 vol.124

発行所●社団法人工学院大学校友会  
 ☎163-8677  
 東京都新宿郵便局私書箱第13号  
 東京都新宿区西新宿1-24-2  
 ☎03-3342-2064  
 ☎03-3340-1649  
 Fax.03-3342-2035  
 E-mail:kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp  
 ht tp://www.mesh.ne.jp/kkoyukai

編集●社団法人工学院大学校友会・広報部会  
 制作●環建築・都市編集工場  
 印刷所●弘報印刷株式会社  
 ☎104-0042  
 東京中央区入船1-5-11  
 弘報ビル2階  
 ☎03-3552-9731  
 Fax.03-3553-8220

発行●2003年4月20日



■ 2002 年度・大学卒業式後のパーティより